

Part 1 基本情報

1. タンザニアプロフィール

- (1) 正式名称 (和文) タンザニア連合共和国
(英文) United Republic of Tanzania
- (2) 政体 共和制
- (3) 首都 ドドマ(法律上の首都)(実質的首都機能はダルエスサラーム)
- (4) 面積 94.5万平方km
- (5) 人口 3,946万人(2006.世銀)
- (6) 民族 バンツ系(スクマ族、マコンデ族、チャガ族、ハヤ族等)、非バンツ系(マサイ族、サンダウエ族等)、インド・パキスタン系、アラブ系
- (7) 言語 スワヒリ語(国語)、英語(公用語)、各部族語
- (8) 宗教 キリスト教(40～45%)、イスラム教(35～40%)、伝統宗教など
- (9) 略史
 1881年 ドイツ領となる。
 1920年 英国委任統治領となる。
 1961年 タンガニーカ独立(ニエレレ首相)
 1962年 共和制移行(ニエレレ大統領)
 1963年 ザンジバル独立(カルメ大統領)
 1964年 タンガニーカ・ザンジバル合邦、タンザニア連合共和国成立。
 1985年 ムウニ大統領選出。
 1990年 ムウニ大統領再選。
 1995年 ムカパ大統領選出。
 2000年 ムカパ大統領再選。
 2005年 キクウェテ大統領選出。
- (10) 在留日本人 345名(2007年10月現在)
- (11) 気候 気候は地域により4つに大別される。ダルエスサラームの位置する海岸地方は高温多湿で大雨季(3月下旬～5月下旬)と小雨季(11月末～12月上旬)がある。6～9月は比較的涼しいが、12～2月はきわめて暑い。中央高原は気温、湿度とも海岸地方より低く、昼夜の気温の差も激しい。湖水地方は高地だが高温多湿である。内陸高地地方の気候は比較的冷涼で、時期によっては暖房を必要とする場所もある。

【参考】「外務省ホームページ-各国・地域情勢-」外務省、Tanzania National Website

2. 業務のための基礎データ

(1) JICA事務所の概要

[タンザニア事務所 JICA TANZANIA OFFICE]

住所 : 3rd Floor, Barclay's House 1008/1 Ohio Street, Dar es Salaam, TANZANIA

郵便物あて先 : P.O.Box 9450, Dar es Salaam, TANZANIA

電話 : (255-22) 2113727~2113730

FAX : (255-22) 2112976

E-Mail : tz_oso_rep@jica.go.jp

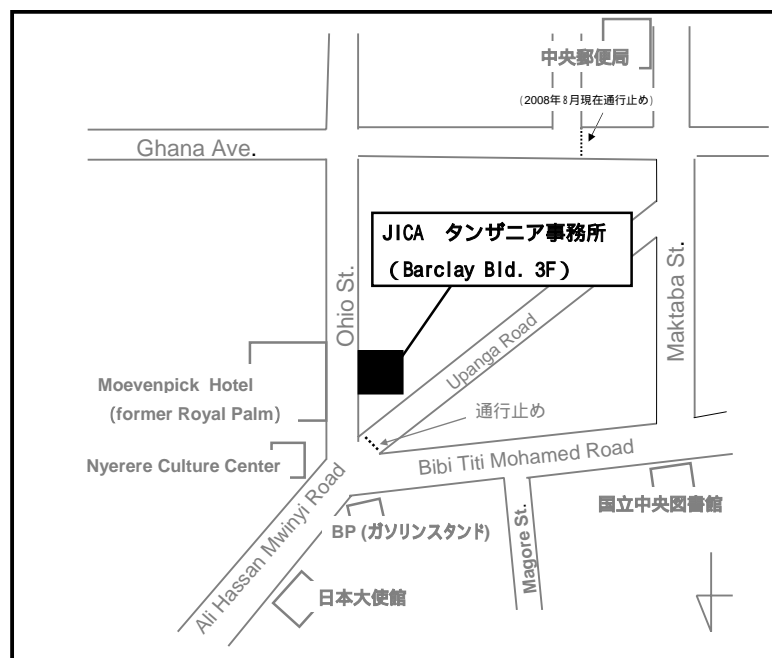
勤務時間 : 08:30-16:30 (昼休み 12:30-14:00)

休日 : (4) 祝日、官庁の休日に準じる。

事務所までの交通 : タクシーを利用すること。「Barclays House」に向かうように指示する。運転手が知らない場合には、「Movenpick Royal Palm Hotelの向かいのビル」と指示すること。

空港から市内までは約25,000~30,000シリング(2,500~3,000円)。空港の税関を出て左側にあるタクシードライバーの組合にあたるUmoja Wa Madereva Teksi Airport (UMTA)のカウンターでタクシーの手配を依頼することを勧める。(2008年9月)

(2) JICA事務所周辺地図



(3) 日本との時差 サマータイム

日本との時差 : - 6時間
サマータイム : 実施なし。

(4) 祝日、官公庁 の休日

祝日 : (2008年)

DATE	Holiday
1 Jan	New Year
12 Jan	Zanzibar Revolutionary Day
20 Mar	Maulid Day(*)
21 Mar	Good Friday
24 Mar	Easter Monday
7 Apr	Karume Day
26 Apr	Union Day

1 May	Workers Day
7 Jul	International Trade Fair
8 Aug	Peasant Day
1 Oct	Idd-El-Fitri (*)
2 Oct	Idd-El-Fitri (*)
14 Oct	The Mwalimu Nyerere Day
8 Dec	Eid el Hajj (*)
9 Dec	Independence Day
25 Dec	Christmas day
26 Dec	Boxing Day

(*)印はイスラムの祝日で、変更の可能性あり。

官公庁の休日：上記祝日と土曜日・日曜日。

- (5) ビジネスアワー
 官庁：7:30～15:30（土日・祝日休み）
 銀行：8:30～14:00（日曜・祝日休み）
 商店：9:00～17:00（多くの店は日曜・祝日休み。昼休みを持つところもある）
- (6) 言語
 業務：一般的にはスワヒリ語を使用。官公庁などでは公用語の英語が通じることも多い。
 ホテル、買い物、食事：外国人の利用の多い商店等では、公用語の英語が通じる。
 * 地方ではスワヒリ語しか通じないところも多い。
- (7) 通貨
 通貨：タンザニア・シリング(T.shs)
 * 一般的に、ドルを含め外貨での支払いはできない。
- (8) 通貨レート
 為替レート：1ドル=1,160(2008年8月)
 最新の為替レートは、以下のサイトで確認のこと。
<http://www.Bloomberg.co.jp/analysis/calculators/currency.html>
 (「ブルームバーグ 為替レート計算」)
- (9) 関係機関
 【在タンザニア大使館】
 住所：Plot No. 1018, Ali Hassan Mwinyi Road, Dar es Salaam, Tanzania
 P.O.BOX 2577 Dar es Salaam
 電話：(255-22) 2115827, 2115829
 FAX：(255-22) 2115830
- (10) 有用サイト
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/tanzania/> (外務省「各国・地域情勢」)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html> (外務省「渡航関連情報」)

Part 2 生活情報

「生活情報」は特に記載のない限りJICA事務所のある都市の情報を中心に掲載しています。

1. ホテル、住宅



1-1 ホテル

赴任当初の利用も可能であるが、シーズンにより満室であることも多いので早めに予約する必要がある。邦人がよく利用するホテルは以下のとおりである。

- ・ New Africa Hotel
- ・ Mövenpick Royal Palm Hotel
- ・ Protea Hotel Courtyard Dar es Salaam
- ・ Harbor View Suites
- ・ Golf Course Apartment
- ・ The Slipway Studio Apartments

1-2 住宅事情

ダルエスサラーム市内では住宅建築が進んでいるが、全国的に外国人向け有料住宅は不足気味である。また高い家賃のわりに設備は乏しい。外国人向け住宅は、家具付で貸し出されることが多い。

1-3 住宅の探し方

住宅の探し方は、不動産斡旋業者に依頼する、新聞広告や無料の広告雑誌(「Advertising DAR」)等を見る、在留邦人に聞く、各所にある掲示板を見るなどの方法がある。

セキュリティ、設備、通勤の利便性、家賃、家主の人柄、周囲の環境などの条件を全て満たす優良物件は皆無に等しく、諸条件の優先順位を決めてから探し始めるのが賢明。

1-4 住宅選定上の留意点

利便性や治安を考慮して、オイスター・ベイ、ムササニ半島、キノドーニ、ウパンガがすすめられる。家主はアジア系タンザニア人であることが多い。家具付の家のほうが多く、手間が省けて便利である。停電や断水に備えて、ジェネレーターや水タンクを完備している物件の方が望ましい。

1-5 住宅の契約

契約期間は1年、支払いは1年前払いが普通である。

1-6 電気、水道などの手続きと管理

電気はルクカードといわれるプリペイドカードを買い、各家のメーターに入力するようになっている。水道料金はメーター制で毎月使用分が請求されるか、もしくは一定料金制である。公共料金に関するすべての領収書は常に保

管し、二重に請求されることがないように注意しなければならない。また、住居に新しく入居する際は前任の分と二重に請求されることがないように確認すること。

ゴミ処理は有料の市のゴミ収集車や個人業者に回収してもらう。市の収集は月払いで、個人業者は毎度の支払いが普通である。トイレは水洗がほとんどである。

1 - 7 家電

(1) 電圧 :240V/50Hz

(2) コンセント、モジュージャックの形 :British Type(BF Type)

(3) 家電製品 :DVD に関しては、こちらで販売されているソフトは欧州・日本と同じリージョンコード2で、DVD デッキも欧州からのものであれば、問題なく日本からのソフトも見ることが可能。しかし、デッキ購入前には、日本からのDVDを店頭で視聴したほうが確実。

CDソフト(CD-R, CD-RW)、DVDソフト(DVD±R, DVD±RW)、DVミニテープは現地で入手可能。しかし、ミニCD、ミニDVDは入手困難。各社のデジタルカメラのメモリーカードも入手可能。現地のFMラジオ放送の周波数は85~110.00kHzと日本より高めであり、日本仕様のラジオデッキでは入らない放送局があるので注意が必要。

1 - 8 家具保険

タンザニア国内で扱っている会社はない。

1 - 9 その他

該当なし。

2 . 衣料、理容



2 - 1 衣料全般

(1) 一般事情

衣類は輸入品、古着が大量に出回っている。最近是中国製の衣料も多い。タンザニア女性は、カンガやキテンゲという木綿のカラフルな布を、体に巻いたり、地元の仕立屋で服をつくったりしている。ダルエスサラームは一年中暑いので、半袖または袖なしで十分であるが、高地へのサファリや出張用に長袖の服も少し用意しておくといよい。虫除けにも役に立つ。

素材は、木綿や麻が涼しく吸湿性もよい。ただし色あせしたり、すり切れたりしやすいので多めに用意すること。水質により、特に白いものは洗濯するたびに変色する。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

【男性】背広 / シャツ / 綿製ズボン / 下着・靴下類 / 運動着 / 靴

【女性】パーティー用ドレス・ワンピース / 下着 / 水着 / 運動着 / 靴 / ハンドバッグ

【子供】衣類全般

(3) 現地で調達したほうがよい衣料

- ・Tシャツ

- ・サファリスーツ(仕事用にも公式の式典・パーティーにも着用できる。)

(4) その他の留意点

乳児用紙オムツは8～10枚入りパック(パンパース)が約4000Tshで売られている。

2 - 2 礼装

(1) パーティー

日本国大使公邸での新年会(カクテル・パーティー)には、男性はネクタイに背広もしくはジャケット、女性はドレスもしくはスーツでよい。

(2) 式典

タンザニアの祝祭日に一般邦人が招待されるような式典はないが、機材供与のセレモニーなどがある場合には屋外でも背広、ジャケットを着用することが多い。

(3) 冠婚葬祭

結婚式にはパーティーの服装でよい。葬儀の際は、地味な服装であれば問題ない。黒ネクタイ、黒の木綿か麻のワンピースがあれば持参したほうが良い。女性の場合は結婚式・葬儀ともにカンガを着ても良い。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2 - 3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

地方では限られるが、ダルエスサラーム市内には数箇所クリーニング店があり、ドライクリーニングも可能である。ホテルにもクリーニングサービス(有料)がある。

アイロン・電気洗濯機は購入可能。

(2) 仕立て、修繕

街中のいたるところに仕立屋はあるが、縫製技術は高いとは言えない。スワヒリ語しか通じない場合が多いので、注文の際は見本として実物を持っていくとよい。

(3) 保管

湿気が多いので防湿剤などの湿気対策が必要。防虫剤はあまり見かけないので持参したほうが良い。

2 - 4 美容院、理髪店

市内にインド人、西欧人が経営する美容院が数店ある。ただし技術はそれほど高くない。

3. チップ



3-1 チップ事情

(1) 習慣の有無

外国人の利用するホテルや飲食店ではチップの習慣が有る。但し必ずしも払わないといけないという訳ではない。

(2) 各種サービスに対するチップ

料金の5~10%程度。ポーターなどには500~1000Tsh程度、レストランは以下を参照。

4. 食生活



4-1 外食

(1) 一般事情

港町であるダルエスサラームでは、新鮮な魚介類を使ったインド料理、中華料理、イタリア料理などが食べられる。また、ファーストフード店も徐々に増えてきている。

チップは義務ではないが、高級店では目安として500~2000 Tshが一般的。

(2) 飲食店

衛生面で清潔な飲食店を選ぶこと。特に地方では、生ジュースや生野菜など生水を使用している可能性のあるものは避けたほうが良い。

4-2 食料

(1) 一般事情

ダルエスサラーム市内は野菜、果物、肉、魚類いずれも豊富であり、種類も多い。一年中暑いため、食料品の選択は慎重にし、必ず冷所に保管することが肝心である。生野菜などは浄化沸騰させた水でよく洗うこと。

和食用食材(昆布、醤油、マヨネーズ、豆腐など)は時にもよるが、オイスターベイホテルのショッピングセンターで手に入る。ただし値段は高い。

(2) 主な食品の出回り状況

<米>

タンザニア国産米はおおむね手に入り、ムベヤ米やキビビという比較的好い品種があり、収穫期や出回り時期に多めに買い置きするとよい。値段は1Kgあたり1000~1500Tshである。

(3) 食料の入手

該当情報なし。

4-3 食器、調理器具

(1) 食器、調理器具などの入手

大型スーパーで入手可能。タンザニア製の食器を取り扱っている店もある。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具

おいしいご飯を炊くためには、炊飯器は日本から持ってきた方がよい(電圧に注意)。また圧力釜なども入手可能ではあるが、性能はあまり良くない。日本の箸類の入手は困難。

5. 生活用品の購入



5-1 家電製品

主なものは入手可能。電圧が日本と異なるので、現地調達が望ましい。

5-2 家具

一般的な家具は調達可能である。近年洒落た家具も出てきているが、耐久性はあまりよくない。

5-3 日用品、雑貨

一般的なものはスーパーで手に入る。

5-4 工具、素材など

インディラ・ガンディー沿いには工具/素材を扱う小さな店がひしめき合っており、大抵のものは入手可能である。

6. 金融機関



6-1 金融機関

(1) 銀行

外国人が利用している主な金融機関は以下の通りである。

- ・Standard Chartered Bank
- ・Barclays Bank

その他、現地銀行が数件ある。(NBC、CRDB、NMB、EXIM など)

(2) 口座の開設と閉鎖

ドル口座およびシリング口座の開設が可能であり、手数料はかかるがドル現金を引き出すこともできる。口座の開設にあたっては、旅券、Exemption Certificate、関係事務所からの紹介レター、デポジット(500ドル程度)を用意する必要がある。いずれの銀行も、日本時の感覚でいう「貸金庫」に近いものがあり、口座開設料、口座維持料、現金引出手数料(引出額の1%程度)等、一切のサービスに課金される。

(3) 換金方法

USドルの現金、T/C、小切手のいずれも換金可能であるが、現金が最も効率的。20ドル以下の小額紙幣は交換レートが悪い。また、発行年が2000年以前の紙幣はタンザニア国内の多くの場所で取引を拒否されている(2008年10月現在)。T/C、小切手は対応できない場合も多く、またレートも悪い。T/C 両替にはパスポートと購入時のレシートが必要である。日本円が換金できる両替所もダルエスサラーム市内にはある。

銀行窓口または空港や街中の両替所で換金する。空港の両替所はレートも普通であり、当座の現金はここで換金することが至便。宿泊しているホテルでも換金可能だが、概してレートは悪い。Movenpick Hotel 1階には、個人経営の両替所が入っている。

両替所はサモラ街に比較的集中しており、レンタカーの運転手に依頼すれば案内してもらえる。両替所を出てからタクシーを拾うことは車内強盗の危険

が高いので止めること。

6 - 2 クレジットカード

主要ホテルでは VISA、MASTERS、DINERS などが使用可能。その他、使用できる場所も増えてきているが、一般的とはいえない状況(別途手数料を取られる場合あり)。また、過去に不正にクレジットを切られたという被害が報告されているため、信頼できるホテル等以外ではクレジットの利用は控えること。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1) ダルエスサラーム市内

市内の交通手段としては、小型バス(現地語 :ダラダラ)、タクシーがある。バスは、車体が整備不良のものも多く、車内でスリが頻発するなど安全面で問題があるので、利用には注意が必要である。料金は1路線 300~500Tsh であり、車体の入り口横に記載されている。発着点が車体前方に記載されていることが多い(例、「Masaki-Posta」)。

流しのタクシーはほとんどなく、治安上も問題があるため、避けた方がよい。ホテルの前など、市内の数ヶ所に乗り場があるので、そこまで出向いた方が早い。

市内の基本料金は、3000~7000Tsh である。料金メーターはなく、乗車前に行き先を告げ、料金を交渉する。なお、ダルエスサラームでは黄色のナンバープレートは一般車輛であり、認可されたタクシーは白色のナンバープレートであることに注意。

(2) 地方都市

移動の際には、必ずパスポートコピーを携行すること。

ダルエスサラームと地方都市を結ぶ交通手段は鉄道、バス、飛行機と船がある。

【長距離バス】ダルエスサラームからはほとんどの主要都市を網羅しているが、地方都市間では、本数が少ない。同じ路線でもいくつかの会社が運行しており、サービス、金額、座席にバラエティがある。おおむね快適とされているのは、Scandinavia 社のバスである。

ダルエスサラームの長距離バスの乗り場は郊外のウブンゴ(Ubungo)にある。市内中心部にバス停留所を設けているバス会社はそこから、ウブンゴ・バスターミナルを経由して発着している。チケットは当日バスターミナルで購入することが容易であるが、バス会社、時期によって満席になることもあるので、1~3日前にバス会社の事務所から購入するのがよい。夜間の運行は JICA では禁止されているため、目的地に夕刻までに着くように早朝に出発しなくてはならない場合もある。ムワンザ方面など1日以上かかる長距離の場

合は、途中の都市で1泊し、翌朝再出発する。

ナイロビ、モンバサ(ケニア)、リロングウェ(マラウイ)、ルサカ(ザンビア)間を結ぶ国際線もある。

【国内航空】路線は、ダルエスサラーム、ザンジバル、ペンバ、タンガ、アルーシャ、キリマンジャロ、シニャンガ、ムワンザ、キゴマ、ムトワラ、リンディ、マフィアに定期便がある以外に、その他の都市にチャーター便を飛ばすことも可能である。

国際便もヨーロッパ、アラブ方面を始め近隣諸国からの便が就航している。タンザニアに乗り入れている国際線は次の通り、

ヨーロッパ線: スイス航空、KLM オランダ航空、英国航空

アジア・中東線: エミレーツ航空、カタール航空

アフリカ線: ケニア航空、プレジジョンエア、南アフリカ航空、エチオピア航空、エアタンザニア、エアマラウイ、エアモザンビーク

【鉄道】には、ダルエスサラーム～ドマ～タボラ～キゴマ間 / ～タボラ～ムワンザ間 / ～タボラ～カリウア～ムパンダ間を走るタンザニア鉄道公社(TRC)と、ダルエスサラーム～ムベヤ～ニューカピリムボシ(ザンビア)間を結ぶタンザン鉄道(TAZARA)の2社があり、寝台車両である1等・2等はいずれも事前の予約が必要である。TRCは、ムワンザ、キゴマへ週3便(火・金・日)の運行。TAZARAは、ザンビアまで週2便(火・金)の運行。それぞれ発着駅は異なり、TRCは市内中心部、TAZARAは市の外れとなる。< Tanzania Railways Corporation ; <http://www.trctz.com/> >

【船】は、ダルエスサラーム-ザンジバル間等がある。ダルエスサラームからザンジバル島、ザンジバル島からペンバ島へは定期船が出航している。ザンジバル島までは高速船を使うと2時間弱で到着する。ムトワラへも定期船があるが、安全上、乗船はすすめられない。飛行機も毎日就航しているので、そちらを使用するのが望ましい。

その他ビクトリア湖、タンガニーカ湖などを横断する船もある。

(3) 自家用車を利用する場合

運転中は細心の注意を払う必要がある。未舗装路だけでなく舗装路であっても陥没していたりしており、平らではないので、スピードは控えめにする。また、夜間走行する際は、街路灯がほとんどないため、対向車、行人が見えにくくなる。ライトが不備な車両にも注意をする必要がある。そのほか、バイクやパトカーに乗った警察が先導する要人車両が通行する際は、路肩等に停止し通り過ぎるのを待つこと。

燃料は地方都市でも問題なく入手可能である。しかし、燃料切れのガソリンスタンドも多々あるため、燃料は早めに補給すること。パンク修理に関しては、地方ではチューブレスタイヤの修理が困難なところもあるため、スペアタイヤの他にチューブを予備に搭載することをすすめる。

(4) レンタカーなどを利用する場合

レンタカー会社にはAVIS、Heartsの外資系列の他に現地業者がある。車両のみでも、運転手付きでも可能である。料金は各社・車種によって異なるが、小型セダン車で、1日US\$50～70、四輪駆動車で1日US\$70～150である。また、走行距離が100キロ超の場合の超過距離、長時間の場合も時間に応じて超過料金が加算される。

主なレンタカー会社は以下のとおり。その他、主な旅行会社でも手配は可能。

- ・Evergreen Car Rentals (Tel: 2182107)
- ・LIV & ROG Enterprises (Tel: 2125964, 0754-831644)
- ・Hedro Safari Tours (Tel: 2151780, 0754-514358)

(5) 地図

道路地図については、ホテル内案内所、旅行代理店、書店、Mapping Office (Ministry of Lands and Human Settlement)などで入手できる。ダルエスサラーム市内地図、タンザニア全土の地図が入手可能である。

7 - 2 交通事故、盗難

安全対策マニュアルを参照のこと。

7 - 3 車の修理

(1) 部品

車両部品に関しては、車種により、入手可能性が異なる。トヨタ車・日産車であれば、ほとんどの部品が入手可能である。しかし、純正品ではなく、まがい物が一般の店では売られており、注意が必要である。トヨタ、日産の正規代理店もダルエスサラーム市内に各1社存在しており、高価となるが、確実に純正品が入手可能となる。また、スズキ、三菱、ホンダ車は部品が入りにくいいため、修理に時間を要することがある。パンク修理に関しては、地方ではチューブレスタイヤの修理が困難なところもあるため、スペアタイヤの他にチューブを予備に搭載することをすすめる。

(2) 修理工場

修理工場は、地方であっても大小を含め数多く存在する。消耗品等の部品の交換だけであれば、短時間で問題なく対処できる。大掛かりな修理となり、修理工場へ預ける場合は、工具類が盗まれることがあるので、車内から取り出しておくか、修理工からあらかじめ確認をとる必要がある。

大方の修理工場では、修理部品の買い付けから取り付けまで一括して行われる。その際、値段については、修理工場任せとなる。修理部品を自分

自身で店を巡り別途購入し、修理工場・修理工に持って行き人件費のみを支払うということもできる。

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

一般回線電話(Tanzania Telecommunications Company Ltd. : TTCL)のほか、携帯電話が普及している。公衆電話はあるが少なく、故障している場合も少なくないので利便性に乏しい。

(2) 国内電話(一般回線電話を用いた場合)

国内 0~50Km :100Tsh/min

国内 50Km 以上 :150Tsh/min

To 携帯電話 :270Tsh/min

To アジア :1.5US\$/min

(3) 電話のかけ方

一般電話から携帯電話 :携帯電話番号をそのままダイヤル

携帯電話から携帯電話 :携帯電話番号をそのままダイヤル

携帯電話から一般電話 :

市外局番 + 相手先電話番号(ダルエス市外局番 022、携帯電話の場合はダルエス市内からかける場合でも市外局番をつける必要がある)

国際電話(日本へ) : (000-81)+(0を除く市外局番) + (相手先電話番号)

(4) 携帯電話

携帯電話会社としては Vodacom と Zain、Tigo、Zantel がある。支払方法はプリペイドカード式が一般的であるが、電話会社との契約によりポストペイドも可能。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

タンザニアでもファックスは一般的であるが、一部回線品質が悪いため、送信を何度か繰り返さなければならない場合がある。FAX 料金は電話と同じ。

(2) インターネット

主要ホテルにはビジネスセンターがあり、電子メールの送受信も可能。無線アクセスのインターネット接続サービスを客室に提供しているホテルもある。価格は、US\$20/時間程度である。ダイヤルアップを行う場合の電話線接続コネクタの形状は、モジュージャックであるが、日本と同じ形状と、英国等で最近用いられている形状の2つがある。後者の変換アダプタは、日本で購入可である。

住宅によっては既にインターネット・アクセスが設置されている住居もある。インターネット接続プロバイダーが数社存在はするが、アカウントの取得や設定に通常2週間以上の日数を要することを考慮し、当地での滞在期間に応じて、現地プロバイダーを利用するか、ローミングアクセスを利用するか選択することを勧める。現地プロバイダーの接続料金は各社によって、また利用形態によって異なるが、無制限で概ね月額 US\$50~60 程度。接続形態の主

流は、無線アクセスである。

街中にはインターネットカフェもあるが、日本語が読めないところも多く、概してスピードは遅い。

< 代表的なプロバイダー >

・ raha.com

URL : http://www.raha.com/

・ intafrika

URL : http://www.intafrika.com/

・ africaonline

URL : http://www.africaonline.co.tz/

・ cats-net

URL : http://www.cats-net.com/

(3) 電報

該当情報なし。

(4) テレックス

該当情報なし。

8 - 3 郵便

(1) 一般事情

国際航空郵便は、日本まではがき Tsh.700、封筒 Tsh.800 ~ (重量による)である。日本までの所要日数は1 ~ 2週間程度。街中には日本のような郵便ポストは少なく、ホテルの受付に依頼するか、あるいは、郵便局の投函口へ直接投函すること。

(2) 課税

小包については郵便局に持ち込み、検査を受けたあと税額が決定し請求される。受け取る荷物についても課税される。

(3) 国際宅配サービス

DHL、UPS 等複数事業者がサービスしている。発送については自宅まで集配可能である。

9 . コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1) 調達の仕方

コンピューターを取り扱っている店は多数存在する。取り扱っているメーカーはHP製、Dell製、東芝製が普及している。これ以外の製品であれば部品を入手するのが困難になったりする。

日本語の OS や日本語版のアプリケーションソフトウェアは入手不可能なので、日本から持参する必要がある。英語版のソフトウェアで普及しているものであれば問題なく入手可能である。

プリンターは、HP 製、Epson 製、Canon 製が普及しており、トナー・インクカートリッジも入手可能であるが、日本国内向けの機種は入手できなかったりするので注意が必要である。

デジタルカメラ、デジタルビデオ、及び USB メモリー、DV カセット等の付属品も入手可能である。

(2) 使用の際の注意

タンザニアでは映像方式が PAL であり日本の NTSC 方式とは異なるため互換性に不都合が生じることもある。テレビ、ビデオデッキはマルチ方式で対応している。

停電が多く電圧も不安定なため、無停電電源装置 (UPS) や電源安定化装置 (スタビライザー) を現地で購入しコンピューター等に接続した方がよい。

(3) 修理

日本のメーカーの機種や細かい修理などは日本で行ったほうがよい。

10. 職場環境、勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

(1) 就業時間

<各省庁>

7 : 30 ~ 3 : 30 (昼休みなし、土日休み)

<JICA>

8 : 30 ~ 16 : 30 (昼休み 12 : 30 ~ 14 : 00、土日休み)

<国際機関>

7 : 30 ~ (金曜日午後、土日休み)

(2) 有給休暇

タンザニアの法律に基づき、年間 28 日ある。

(3) 執務室

省庁は小部屋タイプが多い。

(4) 通勤事情

近年マイカー通勤者が急増しており、特に朝 7 時、8 時台と夕方の 5 時 6 時台には市内でひどい渋滞がみられるようになっている。また昼休みの時間帯も街中での渋滞がひどい。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1) 空港施設概要

該当情報なし。

(2) 入国手続き書類

スタディーツアー、任国外旅行等で入国する場合には、在京大使館が発給する入国ビザ (通常は 3 ヶ月間有効) を事前に取得すること (一般旅券の場合はダルエスサラーム空港内入管窓口 (Immigration) で観光ビザ取得可能)。

(3) 入国審査

入国審査に必要な入国カードは空港に置かれているが、到着前に機内で配布されることもあるので前もって機内で記載しておく方が良い。ビザ、入国カードに不備がなければ問題なく通過できる。タンザニア政府から発給された EC 若しくは受入確認レターの提示を求められることがあるため、コピーを必ず持参すること。

(4) 税関検査

入国審査が済み、荷物を取り出した後に、税関にて荷物の検査が行われる。酒 1 本、タバコ 200 本などが無税である。

無用なトラブルを避けるためにも可能な限りスーツケース、バック等に荷物を入れること。段ボールの荷物は税関にて開けられることが多く、不当な金銭を請求されることもあるので避けること。コンピューターを含め IT 関連機材に関しては無税通関できるが、テレビ、ラジカセ等その他の機材は通関税が課税されることもある。場合によっては空港に同時携行機材を留め置かれることもある。

(5) 空港内での留意点

該当情報なし。

(6) 出迎え

該当情報なし。

(7) 空港からの主な交通手段

「ダラダラ」と呼ばれている公共ミニバスも走っているが、空港からバス停までは数百メートル離れており、タクシーの利用が安全で便利である。

空港から市内までは約 25,000 ~ 30,000 シリング (2,500 ~ 3,000 円)。空港の税関を出て直ぐ左にある、タクシードライバーの組合にあたる UMOJA WA MADEREVA TEKSI AIRPORT (UMTA) のカウンターでタクシーの手配を依頼することを勧める。

(8) その他の留意点

アナカンの利用

タンザニア国ではアナカン (航空別送荷物) の無税通関引き取りに 1 ヶ月以上を要することがある。急ぎ使用する物品等についてはアナカンとせず携行すること。

・British Airways 利用時の機内持込手荷物数制限について

British Airways (以下 BA と称す。) は機内持込手荷物数を乗客 1 名につき 1 個に厳しく制限している。特に東京からロンドンに JAL 等提携便で行き、ロンドンから BA の直行便でダルエスサラームに移動する場合は提携便では 2 つ以上の機内手荷物持込が許されても、ロンドン (ヒースロー空港) での BA 便への乗り換え時に機内持込手荷物数が 2 つ以上あることを理由に搭乗拒否されることがあるので注意すること。(ラップトップパソコン用バックであっても他の機内持込手荷物がある場合は搭乗を拒否された実例あり。)

機内持込手荷物数が多いため搭乗拒否された場合は、空港内でパスポートコントロールを経て (英国内に入国し) 改めて BA 搭乗カウンターで機内持込

手荷物を預け入れ手荷物としてチェックインしなおす必要がある。

11 - 2 出国

(1) 出国時の概要

通常、空港カウンターへのチェックインは、2～3時間前までに行うが、時間帯によっては出発便が重なるため、出国手続きが混雑することがあるので注意が必要である。また、空港カウンターの前に荷物検査が行われ、航空券保持者のみしかチェックインカウンターへは入れない。空港使用税は、あらかじめ航空券発券時に加算されているため、空港カウンターで現地通貨を用意する必要はない。

出国手続きは、比較的スムーズに行われる。空港内には免税店があり、簡単な土産品を購入することも可能である。但し、深夜は営業していないため、深夜発の便は注意が必要である。

(2) リコンファーム

ケニア航空、エチオピア航空、カタール航空は、3日前までにリコンファームをする必要がある。英国航空、オランダ航空、スイス航空、エミレーツ航空は不要とされているが、念のためリコンファームを一度行うこと。

< 主要航空会社 >

- ・British Airways Tel : 2113820/2, 2114160)
- ・Emirates (Tel : 2116100/3)
- ・KLM (Tel : 2115012, 2113336/7)
- ・South African Airways (Tel : 2117044-7)
- ・Swiss International Airlines (Tel : 2118870/3)
- ・Qatar Airways (Tel : 2127399,2127400)
- ・Kenya Airways (Tel;2113336/7)
- ・Ethiopia Airlines (Tel: 2117063/5)

(3) チェックイン

チェックインタイムはフライト予定時刻の2～3時間前。市内中心部から空港までは通常30分程度だが、渋滞により45分以上かかることもあるので早めの出発を心がける。

(4) 空港利用税

通常は航空券購入時に旅行代金として支払われ、券面に支払済みであることが印字される(ザンジバル便は除く)。不明の場合は旅券を購入した旅行代理店に確認すること。

(5) その他の留意点

ザンジバルに渡航する際には旅券の提示が求められることがあるため、携行すること。

11 - 3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

日本国大使館へ、在留届の取り消し。

(2) 車の処分

日本人、外国人、もしくはガレージに売却するのが普通である。売却の際には売買契約書 / 車輛登録書等の必要書類を用意する。また、通常車輛は免税登録をしてあるので、買い手が免税特権者でない場合は車輛の名義変更をする際に通関税分を支払う義務が生じる。税額に対しては、売買の生じる時点での車両価値額をもとに計上される。

(3) 家財道具の処分

私有の家財道具は、後任者など他人に譲渡・売却するのが一般的である。

(4) 住宅の明け渡し

住宅の契約期間が残っている場合、後任者へ引き継ぐか、あらかじめ家主に対して返却の通知をレターで行い、契約の打ち切りを告げる必要がある。後々のトラブルを避けるためにも、退去時には大家と一緒に補修すべきところがないか、公共料金の未払いがないか確認しなければならない。

(5) 外貨持ち出し規制

該当情報なし。

12. 治安、 緊急時の心得

12-1 暴動、クーデターなど

安全対策マニュアルをよく読むこと。

12-2 緊急連絡先電話番号

・日本大使館 : 022-2115827, 2115829, 2117383, 2117384

・警察 :

Airport station : 022-2844010

Central Station : 022-2117362

Oysterbay Station : 022-2667322

Port Station : 022-2116287

Slender Bridge : 022-2120818

・救急 : Knight Support 0784-555911

・消防 : Knight Support 0754-777100

13. 社交



13-1 風俗習慣

宗教は、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教、シーク教、仏教などさまざま、お互いを束縛し合うことはないため、邦人が生活するうえで、特に問題はない。

タンザニアの人々はあいさつを大切にしており、自分より年上、あるいは地位の高い人には「シカモー」といい、相手はこれに対し「マラハバ」と答える。その後、健康のこと、家族、住宅、田舎のことなど、親しい間柄ほどあいさつは延々と続く。

13 - 2 パーティーでの留意点

パーティーを開く時は、公式、非公式にかかわらず招待状(地図、電話番号付き)を出すのが一般的である。開始時間は概して遅れることが多い。

13 - 3 来客時の留意点

客の宗教や主義に留意し、支障のない飲み物や料理を用意すること。

13 - 4 訪問時の留意点

招待状に終了時間が記載されている場合、その時刻をめどに退席(退出)するのが常識であるが、主人側から促されることはないため、客が自ら申し出るようにすること。ワインや花などの簡単な手土産を持参すると喜ばれる。

13 - 5 禁止されている言動(タブー)

・人物を撮影したいときは、必ずその人の許可を得ること。特にマサイの人々に無断でカメラを向けることは厳禁。タンザニアの法律では、公共の建物、港湾、橋などの撮影には許可が必要となっている。

・イスラム教徒が国民の3割を占めており、地域によってはイスラム教徒が圧倒的に多い地方もあるため、配慮が必要。人前(飲食店以外の街中)で飲酒をすることや、女性は肌の露出度が高い衣類を着るなどを避ける。特にラマダン(断食)月は注意する。また、左手で食事をとることも好まれない。

・「クマ(熊)」は、スワヒリ語では要注意語であり、使用を控えること。熊本出身者は「九州」と答える、名前にクマが入っている人はセカンド・ネームを使うなど、工夫すること。

13 - 6 日本人会

ほとんどの在留邦人が加入しており、日本語補修校の運営補助とあわせ比較的活発に活動している。

2008年10月現在の会費は、単身会員が月US\$6(年間US\$72)、家族会員が月US\$12(年間US\$144)となっている。総会・運動会・夏祭り・餅つき大会といったイベントが行われている。

13 - 7 JICA帰国研修員同窓会

帰国研修員約2400人(2007年現在)のうちJICA Alumni Association of Tanzania(JATA, 1984年8月9日に団体として内務省に登録、1986年3月22日発足)には約1200名が加盟しており、10名の幹事(任期3年)が中心となって年次総会や定例会で以下の目的のもとに各年度のアクションプランを話し合っている。2004年11月20日にはJATA ザンジバル支部も設立されており、毎年セミナーなどを開催している。同窓会目的としては、JICA 帰国研修員と在タンザニア邦人との関係を深め、互いの理解促進に貢献すること、及び、タンザニアと日本の技術協力を育み、強化することである。

13 - 8 現地の人々との交流

自宅で雇用している使用人との交流が最も身近である。彼らとの円滑な人間関係なしに、タンザニアでの生活を円滑にすることは難しい。事務所ナショナルスタッフや、担当省庁の担当者とは、クリスマスカード、日本への一時帰国等の際に小物程度のお土産を贈る等の交際があるほか、週末等に自宅へ招じて家族ぐるみで交際することもある。ただ、必要以上に信頼をして寝室の鍵を渡すなど、貴重品へのアクセスを許すことは出来心を育てるので良くない。

14 . 教育



14 - 1 教育事情

(1) 一般事情

小学生以上の子供はほとんどが午前中インターナショナルスクールなどに通い、午後は日本語補修校に通っている。

(2) 日本人学校

午後のみ日本人補習校がある。小学1年生～中学3年生までが日本の教科書で授業を行っている。3学期制で低学年は14 :40～16 :30、高学年は16 :20～18 :00まで。

(3) 現地校、外国人学校、幼稚園

・International School of Tanganyika (I.S.T) :

・Dar es Salaam Independent School :

・Aga Khan Primary School :

・English Medium Academy :

・Heaven of Peace Academy :

・Academic International Primary and Nursery Schools :

この他にも0歳や1歳より面倒を見てくれる小規模な保育園/幼稚園もある。

14 - 2 教育関係施設

(1) 図書館

・国立中央図書館

・Statistical Library

15 . 家庭の使用人



15 - 1 一般事情

一般的に家政婦と運転手を雇っている人が多く、警備員は大家が手配してくれることが多い。

前任者がいる場合はそのまま使用人も引き継ぐ場合が多い。

15 - 2 運転手

(1) 雇用

契約の際は運転免許証の有効期限を確認すること。給与は月～金/土で

100,000Tsh~/月が相場である。

(2) 日常管理

洗車やエンジンオイル、冷却水の点検等を行わせる。

(3) 教育指導

運転マナーが悪いときはその都度注意する。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

15 - 3 家政婦/夫

(1) 仕事の種類と人数

家族構成、家の規模により1~3人を雇用する。子供がいる家庭では家政婦と子守のために2人雇用している場合が多い。子供がいない場合は1人が一般的である。単身者は他の日本人と数日ずつシェアしている場合もある。大きな家だと、家政婦1人と掃除洗濯担当1人という組み合わせもある。

(2) 雇用

貴重品のある場所にも出入りすることがあるので、信用のおける人の紹介が望ましい。

給料は65000Tsh/月~。

(3) 日常管理

悩まされることが多いのは、遅刻・欠勤・盗難である。遅刻・欠勤対策には、自転車の貸与や蚊帳の付与(マラリア対策)などが考えられる。既婚女性の場合には子供の健康状態も欠勤の大きな要因であり、ある程度は寛容に対処すべきである。

盗難対策としては、現金、貴重品を目にふれるところに置かないことである。物の管理に留意し、紛失したら必ず聞いてみる。それが度重なるようであれば、断固とした態度をとることも必要である。また寝室の鍵は手渡さないことも防犯となる。

15 - 4 庭師、ガードマン

庭師は大家が手配することが多く、ガードマンはセキュリティ会社との契約が多い。

一戸建て住宅では治安対策上昼間でも門を閉め、人や車の出入りごとに開閉している。電気や電話のメーターチェックなどと偽って門を開けさせ、強盗に入る例もあるため、来訪者には身分証明書や調査票を提示させた上で家人の許可を得てから門を開けるよう、厳しく指導することが肝心である。

16 .メディア



16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の日刊紙

1992年に複数政党制が導入されたことで言論の自由が確保され、以後一気にたくさんの新聞紙が発行されるようになった。

< 主な英字新聞 >

【日刊紙】

- ・Daily News (日曜 : Sunday News) 500sh 政府系 最古
- ・The Guardian (日曜 : The Observer) 500sh IPP 社
- ・The African 500sh Habari Corporation
- ・The Citizen 500sh 2004 年創刊

【週刊紙】

- ・Business Times (金) 500sh
- ・Financial Times (水) 500sh IPP 社
- ・The East African (火) 700sh The Nation Media Group
(本社ナイロビ) 東アフリカ域内新聞紙
- ・The Express (木) 500sh

< 主なスワヒリ語紙 >

【日刊紙】

- ・Uhuru (日曜 : Mzelendo) 300sh CCM 党機関紙 最古
- ・Tanzania Daima 300sh CHADEMA 党機関紙
- ・Mtanzania 300sh Habari Corporation
- ・Nipashe 400sh IPP 社
- ・その他 Majira, Mwananchi など多数

【週刊紙】

- ・Rai
- ・Tazama
- ・その他ザンジバル島発行の新聞、スポーツ紙、夕刊紙、宗教紙など多数

(2) 日本の日刊紙

契約をすれば 3～5 日遅れで衛星版が送られてくる。

(3) 欧米紙 / 誌

該当情報なし。

(4) 日本の雑誌、書籍

入手困難。

16 - 2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

政府系のラジオ放送局(TBC)以外にも民間の放送局が多数ある。
ケニア、タンザニア、ウガンダにまたがるラジオ局もある。

(2) NHK ワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

6000KHz から 21000KHz が受信できるラジオがあれば聞ける。

タンザニア時間 周波数 (2008 年 10 月現在)

18 :00 20 :00 17735KHz

NHK ワールドニュース HP : <http://www.nhk.or.jp/nhkworld/>

【NHK ワールド・ラジオ日本問い合わせ先】

・NHK 国際放送局企画編成部

所在地: 〒150-8001 東京都渋谷区神南 2-2-1

電話: 海外から: +81-3-3465-1111 (平日 / 日本時間 10:00 ~ 19:00)

日本国内から: 0570-066066 (NHK 視聴者コールセンター / 24 時間受付)

E-mail: nhkworld@nhk.jp

周波数表、番組表の入手

URL: http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html

FAX: +81-3-5454-0888 情報番号 260

・日本語放送の周波数表・番組表 FAX サービス

・郵送: 上記 NHK 国際放送局企画編成部に請求する。(無料)

16 - 3 テレビ

(1) 地上波放送局

政府系の Tanzania Broadcasting Cooperation (TBC1) や民間の Independent Television Limited (ITV)、Pulse Television、Channel 5、Star TV、DTV、Channel Ten など、多数ある。

(2) 衛星放送、ケーブルテレビなど

該当情報なし

(3) テレビ受信

映像方式に関して、タンザニアでは PAL 方式を採用しているため、日本仕様の NTSC 方式のテレビ・ビデオは現地では使用できない。また、現地では、マルチ方式のテレビ・ビデオデッキが調達可能であり、日本のビデオも見ることも可能。

17. スポーツ、 趣味、語学学習



17-1 スポーツ

ダルエスサラームでは、近年スポーツジムは増えてきている。ゴルフコースもある。ジム・プール付の集合住宅も多く、中にはテニスコート付のところもある。

(1) ゴルフ

該当情報なし。

(2) テニス、フィットネス

該当情報なし。

(3) その他のスポーツ

該当情報なし。

17-2 趣味

該当情報なし。

17-3 語学学習

(1) 語学学習施設

ニエレカルチャーセンターやスリップウェイ、Salvation Army Hostel、Russian Culture Center ではスワヒリ語のレッスンが開催されている。

British Council では英語のレッスンも行っている。

(2) 家庭教師

スワヒリ語や英語の個人レッスンを依頼することも可能である。

18. 観光

18-1 地方旅行の留意点

・旅行計画を立てる場合、交通機関の便数が少ないうえ、オーバー・ブッキングやフライト・キャンセルなどがしばしばあるので、日数には少しゆとりをもたせたほうがよい。リコンファームは必ず行うこと。

・ナショナルパークで野生動物に襲われる事件も発生している。パーク内・周辺では歩行可能地域やロッジでも、子供はひとりにしない、大人もなるべく二人以上で行動するという注意が必要。

・キリマンジャロ登山の場合、高山病などに注意すること。詳しい注意点は国別医療情報を参照。

18-2 主要観光地・保養地

セレンゲティ国立公園/ンゴロンゴロ国立公園/ザンジバル島が挙げられる。

18-3 旅行代理店

<トラベル・エージェント>

・JATA ツアーズ

・Waljiyus Travel Bureau

・Skaylink

・Rickshaw

・Leopard Tours

19. 私財の輸送、
引き取り、
購入

19-1 家財道具

(1) 輸送業者

ダルエスサラームには、多数の通関・輸送業者が存在する。任地により輸送方法が異なるので配属先と相談の上、選定するとよい。

(2) 輸入手続き

日本から発送した際の輸出書類をしっかりと入手しておく必要がある。免税対象者には、到着後6ヶ月以内であれば、日本からの家財道具(生活用品)及び、車両1台までが無税通関できるが、免税許可がおりる前に荷物が到着すると、空港・港に保管されるため、盗難にあう確率が高くなる。保管期間を短くするために日本での船積みの手続きを上手く立てる必要がある。

航空便は、荷物が書類より先に到着することがあっても書類のコピーでも引取作業は進められる。船便の場合は、輸出時に発行される原本を入手してからでないと引取作業ができない。また、出発前に到着便(船)名、到着

日を確認しておくこと。受取港については、ダルエスサラーム港とする。

(3) 輸入貨物の受け取り港

該当情報なし。

19-2 自動車

(1) 一般状況

タンザニア国内の車の量は大幅に増加しており、スペアパーツなどの需要も増加しているため、スペアパーツの盗難も多い。また輸送中の破損も多発しているため、輸入する際は必ず輸送保険に加入しておくこと。また、盗難の可能性の高いカーステレオ、パワーウィンドウなどを別送することも盗難防止となる。

(2) 輸入手続き

一人につき1台まで無税通関できる。二輪車も1台と数えられる。日本から持ち込む場合は、必要な部品も同時に持ち込むと便利である。

(3) 現地での購入

メーカーの代理店(トヨタ、日産)で新車は購入できる。中古車業者も複数存在するが、車両の質については、当たり外れがある。日本で中古車を購入し輸送した方が確かであり、値段も割安となる。

(4) 自動車登録

輸入手続きもしくは、現地購入する際の業者に登録まで手続代行を委託することができる。登録は1年毎に更新する必要があるので注意すること。

(5) 免許証取得

日本の国際免許証(国外免許証)に交通警察及び歳入庁交通局の裏書を得れば、タンザニア国内での運転は可能となるが、有効期限が1年のため着任時にタンザニア国内の免許(3年間有効)を取ることをすすめる。

(6) 保険、税金

自動車を運転するには、車両保険を掛ける必要がある。保険掛け金に関しては、保険のタイプ、車両価値額の設定によってかわる。また、1年毎の更新が必要である。

タンザニア国内の保険による補償金額はきわめて小額であり、事故の加害者となった場合(特に被害者が外国人の場合)、保険金が大幅に不足する可能性が高い。赴任前に国内において損害賠償責任保険等への加入が望ましい。

20. 地方都市



該当情報なし。

21. 政府機関

<ダルエスサラーム>

官公庁(一部ドドマにも事務所あり)は以下のとおりである。事務時間は、通常、月～金曜日の7:30～15:30である。

Tanzania mainland

Ministry of State in the President's Office	022- 2116898/9
Public Service Management	
Good Governance	
Ministry of State in the Vice President's Office	022- 2110614
Union Affairs	
Environment	
Ministry of State in the Prime Ministry's Office	022- 2117249/55
Regional Administration and Local Government	
Policy, Coordination and Parliamentary Affairs	
Ministry of Foreign Affairs and International Co-operation	022 -2111937-41
Ministry of East African Co-operation Affairs	022- 2126660
Ministry of Planning and Finance	022- 2111175/6
Ministry of Industry, Trade and Marketing	022- 2180049
Ministry of Agriculture, Food Security and Co-operatives	022- 2862480/4
Ministry of Natural Resources and Tourism	022- 2114373
Ministry of Water and Irrigation Development	022- 2450030, 2451448
Ministry of Energy and Minerals	022- 2126557, 2124170
Ministry of Infrastructure Development	022- 2116704
Ministry of Health and Social Welfare	022- 2120261/4
Ministry of Education and Vocational Training	022- 2110146
Ministry of Science, Communication and Technology	022- 2125455/7

Ministry of Labour, Employment and Youth Development	022- 2112506
Ministry of Lands, Housing and Human Settlements Development	022- 2121241/9
Ministry of Information, Culture, and Sports	022- 2111553/9
Ministry of Defence and National Service	022- 2151197/9
Ministry of Home Affairs	022- 2112034
Ministry of Justice and Constitutional Affairs	022- 2118178
Ministry of Community Development, Gender and Children	022- 2132526
Ministry of Livestock and Fisheries Development	022- 2862592

Revolutionary Government of Zanzibar

President's Office	024- 2230814/5
Chief Minister's Office	024- 2230806/1126
President's Office, Constitutional Affairs and Good Governance	024 2233459/32321
Ministry of State (President's Office) Local Government and Special Units	024- 2232389/31993
Ministry of Finance and Economic Affairs	024- 2231169/71
Ministry of Communication and Transport	024- 2232841
Ministry of Tourism, Trade and Investments	024- 2231517/32100
Ministry of Agriculture, Natural Resources, Environment and Cooperatives	024- 2232840
Ministry of Youth, Employment, Women and Children Development	024- 2230808/32667
Ministry of Health and Social Affairs	024- 2232605/35821

Ministry of Water, Construction, Energy and Land	024- 2236292
Ministry of Education, and Vocational Training	024- 2232827/498

Part 3 イエローページ

*特に記載のない限り、事務所周辺の情報が中心になっています。

1. JICA 事務所

名称	JICA Tanzania Office
所在地	3rd Floor, Barclay's House 1008/1 Ohio Street, Dar es Salaam, TANZANIA
TEL/FAX	電話 : (255-22) 2113727~2113730 FAX : (255-22) 2112976
URL/E-mail	http://www.iica.go.jp/tanzania/ tz_oso_rep@iica.go.jp

2. 在タンザニア日本大使館

所在地	Plot No. 1018, Ali Hassan Mwinyi Road, Dar es Salaam, Tanzania
TEL/FAX	電話 : (255-22) 2115827, 2115829 FAX : (255-22) 2115830

3. 緊急連絡先電話番号

日本大使館	022-2115827 /9
警察	112
消防	112
救急車	112

4. ホテル

Mövenpick Royal Palm Hotel	Ohio Street. 電話: +255-22-2112416 FAX: +255-22-2113981 URL: http://www.moevenpick-hotels.com/hotels/Dar_Es_Salaam/welcome.htm?cultureLang=en E-mail: hotel.daressalaam@moevenpick.com 料金: US\$160 (Single) 朝食付
New Africa Hotel	Azikiwe Street / Sokoine Drive 電話: +255-22-2117050/51 FAX: +255-22-2110190 URL: http://www.newafricahotel.com/ E-mail: reservations@newafricahotel.com 料金: US\$125 (Single) 朝食付
Harbor View Suites	Samora Ave. 電話: +255-22-2124040 FAX: +255-22-2120333 URL: http://www.harbourview-suites.com/ E-mail: reservation@harbourview-suites.com 料金: US\$110(S), キッチン付き (1ヶ月以上の滞在の場合 US\$85/日)
Protea Hotel Courtyard Dar es Salaam	Ocean Road 電話: +255-22-2130130 FAX: +255-22-2130100 URL: http://www.proteahotels.com/protea-hotel-courtyard-dar.es.salaam.html E-mail: courtyard@raha.com 料金: US\$125 (Single) 朝食付
Protea Hotel Ovsterbev	Haile Selasie/ Ali Hassan Mwinvi Rd. Ovsterbev 電話: +255-2666665 FAX: +255-22-266760 URL: http://www.proteahotels.com/protea-hotel-ovstarbav-dar.es.salaam.html E-mail: proteadar@africaonline.co.tz 料金: US\$160(1bedroom), \$205(2room) (1ヶ月以上の滞在の場合 US\$3400/月(1), \$4380/月(2))
Golf Course Apartment	Plot 91, Guinea Road, Ovsterbev 電話: +255-22-2668912/16 FAX: +255-22-2667379 E-mail: golf@raha.com 料金: US\$1850/月(1LDK), \$2400/月(2LDK) 電気・水等込み インターネット接続料金 \$45/月
The Slipway Studio Apartments	Msasani, Slipway 内 電話: +255-22-2600893 FAX: +255-22-2600908 E-mail: slipway@coastal.cc 料金: US\$1500-1800/月(1bedroom), \$1800/月(2Room) 電気代別。

5.不動産会社

Baobabu Development Ltd.
TEL: 0784-828811.022-2602644

Estia Real Estate
Sea Cliff
TEL: 022.2600444

Knight Frank, Ursula
Ovster Bav
TEL: 0784-471853

Shaika
TEL: 0754-287470

6.レストラン (ダルエスサラーム)

Kibo Bar
Movenpick hotel 内
TEL: 022-2112416
西洋料理

Karambezi Café
Hotel Sea Cliff 内
TEL: 022-2600380
西洋料理

Sour
Sea Cliff Village 内
肉料理・他 ファミレス風

Shooter's Grill
Namanga (Kimweri Ave.)
TEL: 0754-304733
肉料理

The Terrace
Slipway 内
TEL: 022-2600908
イタリア料理

La Tattoria Jan
Namanga
TEL: 022-2668739
イタリア料理 ピザがおいしい

L'arca Di Noe'
Namanga
TEL: 022-2666312
イタリア料理

Honking Restaurant (香港太陽神)
Bibi Titi Road
TEL: 022-2136622
中華料理

Tai Huo San Zhuang Restaurant (太和山荘海鮮酒家)
Zanaki Street
TEL: 022-2110674
中華料理

四川酒家
Mhasibu House, Bibi Titi Road
TEL: 022-2150548
中華料理 タンザニア人客も多い。

重慶飯店
Golden Tulip Hotel 内
TEL: 0743-013038
中華料理

Oriental Restaurant
Kilimanjaro Hotel 内
TEL: 022-2131111
日本食。 すしバーがある。

Azuma
Slipway 内
TEL: 022-2600893
古くからある日本食レストラン

Osaka	Oysterbay, Chaza Lane 沿い TEL: 0754-388182 韓国人経営
Subway	Upanga Road(事務所裏)他 ファーストフード
Sawasdee	New Africa Hotel 内 TEL: 022-2117139 (New Africa Hotel) タイ料理。夜の港の景色が良い。
Chicken Tikka Inn	Upanga Nkomo Road (日本大使館付近) TEL: 022-2125610 インド料理
L'Epidor	Samora Ave. TEL: 022-2136006/7 パン屋
Bakers Basket	Moevenpick Hotel 内 TEL: 022-2112416 パン屋

7.食料品の入手 (ダルエスサラーム)

<市場>

Kistu Market	Bibi Titi Road 外国人もよく利用する。(生きた)鶏も売っている。駐車場は少ない。
Kinondoni TX Market	Konondoni Road 中国人の利用が多く、だいこんや白菜などの中国野菜も手に入る。

<スーパーマーケット>

Shoppers Plaza	Old Bagamovo Road 古くからあるスーパーマーケット。最近改装し、ショッピングセンターに発展。
Shoprite	Pugu Road 南アフリカ系の大型スーパー。市内に数件ある。
Imaraseko	町中, Garden Avenue 古くからあるスーパーマーケット。少し高め

8.デパート、ショッピングセンター

Slipway	Msasani 半島 スーパーマーケットもある。土産物屋が多い。週末は屋外の土産物屋も出て賑わう。
Sea Cliff Village	Sea Cliff Hotel の構, Msasani 半島 スーパーマーケットもある。フードコートなどレストランも。
Mlimani City	Mwenge 2006年オープン。大型のショッピングセンター。スーパーマーケット、ホームセンターのようなものが入り、電化製品や生活用品などほとんどのものが手に入る。レストランや映画館もあり。駐車場は大きい。一部の銀行は日曜日にも営業している。

9.家具

Furniture Center	ダルエスサラーム市内に2件ある。Nyerere Road, Lumumba Street
その他	: Nyerere Road には、大型家具屋が数件あるので、比べるとよい。

10. 工具、素材

ダルエスサラーム市内 Indira Gandhi Street に工具店が多い。
 昼休みを取る店が多いので、注意する。(12:30 ~ 14:30頃)

11. 医療機関

IST(International School of TANGANIKA) Medical Scheme Clinic

IST 高等部敷地内

Tel: 2601307/2601308 Mobile 0784-783393 緊急時:0754-783393 Fax: 2600127

E-mail: istclinic@istafrika.com

診療時間: 月曜日~木曜日 8:00~12:00 16:00~18:00 金曜日 8:00~13:00 土曜日 9:00~12:00

Regency Medical Centre レジェンシーメディカルセンター(総合病院)

Fire St.

Tel: 2150500 FAX: 2150180

診療時間: 月~土 8:00~20:00 24時間外来

診療科目: 内科、外科、産婦人科、小児科、循環器科、皮膚科、耳鼻科、眼科、歯科など

設備: 外来、薬局、検査室、レントゲン(CT 検査可)、心電図検査、超音波検査

Aqa Khan Hospital アガカーン病院(総合病院)

Ocean Rd.

Tel: 2115151~3, 2114096 FAX: 2115904

診療時間: 月~土 9:00~16:00 緊急外来があり、24時間対応可能

診療科目: 内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、歯科など

設備: 外来、病棟、薬局、検査室、レントゲン(CT 検査可能)、心電図検査、超音波検査、リハビリ室、歯科

Premie Care Clinic & pharmacy

Ali Hassan RD

Tel: (022) 2668385 携帯電話: 0713-552257

診療時間: 月曜日~金曜日 8:00~12:30 14:30~18:00 土曜日 8:00~13:00

診療科目: 一般内科、熱帯医学、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科など

設備: 外来、薬局、検査室、心電図検査、超音波検査

AXA緊急移送会社の移送時などは、同クリニックの医師が随伴する。

12. 民間救急車派遣会社

Knight support

TEL: 0748-555911/0754-777100

13. 薬局

Medi pharm

Samora Avenue/ Sea cliff / slipway の3店あり

一般薬、処方箋の薬は品揃えあり、品質ともに安全である

Premie Care Clinic & pharmacy

Ali Hassan RD

Tel: (022) 2668385 携帯電話: 0713-552257

14. 金融機関

Standard Chartered Bank Main Office : Corner Shaaban Robert & Garden Avenue

Tel : 022 2122160

Fax : 022 2113770

HP : <http://www.standardchartered.com/tz/>

Barclays Bank

Ohio Street Branch : TDFL Building.

Tel : 022 2129744

Tel : 022 2129744

Barclays Bank

Slipway Branch : Slipway, Dar es Salaam

Tel : 022 2602967

Tel : 022 2602967

15. レンタカー会社

Evergreen Car Rentals

Tel: 2182107

LIV & ROG Enterprises

Tel: 2125964, 0754-831644

Hedro Safari Tours

Tel: 2151780, 0754-514358

XPRESS RENT-A-CAR

Tel: 022 2128356/7 0754-604958

16.国際宅配サービス

DHL Tanzania Ltd.

Plot 128, Nverere Road Dar es Salaam(P.O.Box 3045)

電話: 022-2861000 ~ 4 FAX: 022-2862703

URL: <http://www.dhl.com> E-mail: inquiries@dar-co.tz.dhl.com

UPS

Haiderv Plaza, Ali Hassan Mwinvi Rd./Kisutu St. Dar es Salaam (P.O.Box70603)

電話: 022-2122403 ~ 4 FAX: 022-2123125

URL: <http://www.ups.com/content/corp/worldwide/africa/tanzania.html>

17.コンピューターの販売・修理

Elite Computer(T) Ltd.

Box 79414

Tel: +255 222 775 821 Fax: +255 222 775 821

URL: <http://elitez.com/index.html>

18.教育機関

日本語補習校

IST Secondary 内

TEL: 022-2600441

<http://matsuyama.cool.ne.jp/dsmilc/>

小学 1 年生 ~ 中学 3 年生までが日本の教科書で授業を行っている。3 学期制で低学年は 14:40 ~ 16:30、
高学年は 16:20 ~ 18:00 まで。

International School of Tanganyika (I.S.T)

幼稚園・小学校: Upanga, 中学校: Msasani 半島

Tel: 022 2151817/8

<http://www.istafrica.com>

幼稚園(Early Childhood:3-5 歳)・小学校(Elementary School: 6-10 歳)・中学校(Secondary School: 11-15
歳)がある大規模校。

Dar es Salaam Independent School: 幼稚園(3 歳 ~)、6 ~ 12 歳用

Tel: 022 2775776

Aqa Khan Primary School: 幼稚園(3 歳 ~)、6 ~ 12 歳用

Tel: 022 2152484/5

English Medium Academy: 幼稚園(3 歳 ~)、6 ~ 12 歳用

Tel: 022 2600679/2650469

Heaven of Peace Academy: 幼稚園(5 歳 ~)、6 ~ 15 歳用

Tel: 022 2780444/2780628

Academic International Primary and Nursery Schools: 幼稚園(3 歳 ~)、6 ~ 12 歳用

19.図書館

国立中央図書館 (Maktaba Kuu)

Bibi Titi Rd.

メンバーになるには 3000Tsh と身分を証明するレターが必要。

Statistical Library

Kivukoni Front

開館時間 : 月 ~ 金 7 :30 ~ 15 :30

統計局内にある統計関連図書を中心とする図書館。統計資料の購入も可能。

20.新聞の購読

< 日本の新聞 >

該当情報なし

< 外国の新聞 >

該当情報なし

21. ケーブルTV 会社

該当情報なし

22. スポーツ施設

該当情報なし

23. 語学学校

該当情報なし

24. 旅行代理店

JATA ツアーズ

Tel : 2134153, 2134431 Fax : 2134152

Waliis Travel Bureau

Tel: 022-2110321

Skavlink

Tel: 022-2115381

Rickshaw

Tel: 022-211409

Leopard Tours

Tel: 022-2119750

25. 輸送会社

該当情報なし

26. 保険会社

該当情報なし

安全対策マニュアル

< 長期滞在者用 >

2009年10月

JICAタンザニア事務所

安全対策マニュアル目次

0	タンザニアを訪問される方へのご案内(安全の心得)	
1	安全対策の基本的な考え方	1
2	タンザニアにおける危険事情	2
3	日常生活での防犯・安全対策	4
(1)	住居の防犯・安全対策(一般的事項)	4
(2)	住居形態別安全対策	6
(3)	生活行動にかかる対策	7
(4)	タクシー利用上の注意	11
(5)	騒乱・暴動等の非常事態に備えての準備事項	12
4	自動車に関する防犯・交通安全対策	13
(1)	運転免許・自動車保険	13
(2)	車両への防犯対策	14
(3)	日常の車両整備	14
(4)	運転・乗車時の注意事項	15
(5)	交通違反について	18
5	事件・事故発生時の対応	19
(1)	交通事故に遭ったら	19
(2)	車輜強盗に遭ったら	20
(3)	路上強盗に遭ったら	20
(4)	家宅侵入強窃盗に遭ったら	20
(5)	デモ・騒乱を察知したら	21
(6)	自宅待機・緊急避難の指示が出た際の準備	21

タンザニアを訪問される方へのご案内(安全の心得)

(前置き)

タンザニア(アフリカ)の人からみれば、明らかにあなたは外国人として見られています。当地ではスリ・引ったくりの被害が多く発生しています(日本人も遭遇しています)

10 か条

- (1) 目立たない ← 必要以上に目立つ言動・身なりは避ける
- (2) 貴重品・現金を人前で見られない ← 被害にあう可能性を高めます
- (3) 荷物の置き場所に注意 ← ホテル、車、レストラン、訪問先等では肌身・目を離さないように
- (4) 貴重品管理は徹底を ← ホテルの部屋ではかばん等に鍵をかける
- (5) 借上げ車輛かタクシーを使用 ← バスはスリ・引ったくりに遭遇する可能性が高い
- (6) 乗車中は窓を閉め、ドアをロックする ← スリ・引ったくりに会わないよう確実に確認
- (7) 知らない人から薦められても口にしない ← 睡眠薬入り飴玉や飲み物あり
- (8) 歩行する場合は、市場等不特定多数が混雑する場所、逆に人通りの絶えた道路は避ける
夜間の外出はできるだけ避ける ← 外出時は借上げ車輛なければタクシーを使用
- (9) 防蚊対策をとる ← 夕方6時から朝7時まではハマダラ蚊(マラリア)の活動が盛んです
- (10) 生水は飲まない ← ペットボトル入りの水を購入してください

注):当国においては、タクシー等営業車のナンバープレートは白地に黒色で番号が表示されています。従って当地では当局の許可を得ていないタクシーのナンバープレートは、白地以外のものを指しますのでご注意ください。(ダルエス内では黄、緑、青いずれかのラインのある車輛の使用をお勧めします)

以 上

1 JICA タンザニア事務所

- ・住所 : 3rd Floor, Barclay's House, 1008/1 Ohio Street, Dar es Salaam
- ・電話番号: +255(国コード)- 22(地域コード)- 2113727 ~ 2113730
- ・執務時間: 8:30 ~ 16:30(昼休み 12:30 ~ 14:00)、土日・祝日は休み

2 日本大使館

- ・電話番号: +255(国コード)- 22(地域コード)- 2115827/9

1. 安全対策の基本的な考え方

世界各地で活躍する邦人が増えたことに伴い、強盗、誘拐、テロの他、事故、内乱、クーデターなどに巻き込まれる事態が多く発生しています。

タンザニアでも米国大使館爆破テロ事件(98年)や専門家車輛強盗殺人事件(98年)が過去に発生している他、スリ、空き巣、強盗などの一般犯罪の報告が依然として多く、JICA関係者の被害も数多く発生しています。

2005年度にはタンザニアにおけるJICA関係者の犯罪被害件数が全世界最多(30件)となり、2006年度から2008年度にかけても、年平均15件前後発生(主にスリ、空き巣等の軽犯罪)している状況です。

交通事故については、2007年度には交通事故被害件数が全世界最多(8件)を記録し、2008年度は4件発生しています。

JICA関係者の犯罪遭遇率が高い理由は、JOCVなどが草の根レベルで活動をしているということもありますが、本人の不注意に起因する被害が数多く見られることから、**各個人の安全対策に関する当事者意識を持つ、維持する**ことが重要です。

犯罪や事故に遭遇する可能性をゼロにすることはできませんが、適切な予防対策をとればその可能性と被害を最小限に抑えることはできます。こうした対策の一部(情報収集や連絡体制整備など)はJICA事務所でも行っていますが、これらはあくまで補助的なものであり、**最終的には自分と家族の安全は自分で守る**ということを認識し、常に最悪の事態を想定し、物心両面から準備を行い、万全の対策を講じた上で、日々の生活を送られるようお願いいたします。

常に次の安全のための三原則を忘れないよう心がけてください。三原則とは「**目立たない**」、「**行動を予知されない**」、「**用心を怠らない**」ことです。これは至極当然のように思えますが、この三原則を守って生活することはそう簡単なことではありません。日本での行動形態、生活様式をそのまま海外に持ち込むと、本人が意識しているか否かに関わり無く目立ってしまい、自らを危険に曝すことになる場合もあります。

目立たない:

必要以上に華やかな服装、装飾品をつける、現地ではあまり見かけないような目立つ車に乗る、公共の場(レストラン、バーなど)で大きな声で現地の悪口を言う、政治、宗教、文化、習慣、生活環境などの批判をすることは、目立つばかりでなく犯罪者等に狙われる原因にもなるので、差し控えます。犯罪者やテロリストは、標的を選ぶ際にまずは目立つ人物に目を付ける傾向があります。

行動を予知されない:

行動のパターン化(通勤、通学、買物、娯楽、外食の際の移動ルートや時間などの固定化)は犯罪者、テロリストなどに攻撃計画を立てやすくしますので、移動の際のルートや時間を含め、なるべく不規則な行動を心がけ、予測されにくくします。

用心を怠らない:

現地に到着した当初は安全に気を配っていても、何か月か、何年か現地で生活し慣れが生じてくると、当初注意していた諸点を忘れがちになり、思わぬ被害に遭うことがあり

ます。また、現地の治安状況は予期せぬことが原因で大きく変化することもあります。家族全員で気持ちを引き締める機会を定期的に持つことが必要です。

また、危機管理の観点から現地社会にとけこむことが重要です。

普段より、隣人、コミュニティ、在留邦人等と付き合い、良好な関係を築き上げるように努め、様々な個人や組織との間でネットワーク作りを心掛けます。そうすれば、いざというときに隣人の助けも得られますし、自然と様々な情報が入ってきます。待っているだけでは情報は入ってきません。現地コミュニティ、隣人などの「口コミ」情報は、事柄の内容、また地域によっては、極めて貴重な要素を含んでいることもあります。

円滑なコミュニケーションを図るためにも赴任前には、簡単でも良いので、少なくとも赴任する国の歴史、宗教、文化、習慣、政治、言語などに関する本に目を通し最低限の知識(特に非常の際必要な単語、短文など)を身に付けておくことをお勧めします。

一般的な犯罪状況は現地の新聞やTVを見ることで入手することも出来ます。また、現在はインターネットが発達し、安全対策関係の情報もインターネット経由で入手できるようになりました。主な情報源を以下に紹介します。

また、在タンザニア日本大使館が在留邦人に電子メールにて送付する情報については目を通すことをお勧めします。

外務省海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

アメリカ大使館領事局ホームページ <http://travel.state.gov/>

タンザニアのメディアホームページ <http://www.ippmedia.com/>

2. タンザニアにおける危険事情

タンザニアにおいては、危険を類別すると **(1)街中での犯罪、(2)自動車強盗、(3)家宅侵入、(4)交通事故、(5)政治的・宗教的な動乱、に巻き込まれる**、の5つに大きく分けて考えることができます。ここではタンザニアで発生している犯罪内容及び対策をごく簡単に説明します(詳細な防犯対策については3章以降で触れます)。

(1)街中での犯罪

町中で行われる日常的犯罪、具体的にはスリ・かっぱらい、強盗等がこれにあたります。犯罪者は町中で適当な標的(カモ)を狙っていたり、畏をはって待っていたりします。日本人を含む外国人は一般的に「金持ち」と見なされていますので当然標的になり易くなります。過去に犯罪被害にあった方は、たださえ目立つ外国人である上に、何らかの形で隙を見せている場合がほとんどです。つまり隙を見せなければこうした犯罪の対象となる可能性を下げることができます。

具体的な対策としては、出かけるときの**荷物を減らす**、人前で多額のお金、財布を見せない(いわゆる”目立たない”)、そもそも**危険な地域には近寄らない**ことなどです。

ダルエスサラーム市内においては、ザンジバル行きフェリーの出る港、Kariakoo Market、中央郵便局(Posta)周辺等の不特定多数の人間が行き来する場所(終日)、あるいは逆に Toure Drive(含 Coco Beach)、Ocean Road のように人通りが割に少ないところ(朝、夕、夜)

を徒歩で通行するのは極力避けることをお勧めします。

また、空港に到着後、入国カードに記載の情報が何者かによって他者に漏れ、チェックインしたばかりのホテルの部屋において、現金を狙われるという事例もあります。

(2) 自動車強盗

自動車をターゲットとした犯罪は、車又は金品を狙ったカージャック、車内荒し、部品盗難などがあり、ダルエスサラームや地方の主要都市を中心に発生していますので、注意を要します。

対策としては、夜間人気が少ない場所を運転しない、狙われやすい場所を通らない、施錠と窓閉めを徹底する、車両への適切な防犯対策を施す、ドライバーへの指導(駐車中に車から目を離さない等)を徹底するなどが考えられます。

(3) 家宅侵入

この犯罪に遭遇することは長期滞在者にとって、心理的にも物理的にも最も深刻な被害といえるでしょう。家宅侵入のほとんどは、犯罪者にとっても危険が伴うため、より高額な金品を強奪することを目的としています。このために、明らかに財産が多い、また犯罪成功率が高いと見受けられる家を狙う傾向にあります。これらを考えると、まず必要な対策は**所持する財産が多いことを周囲に知られない**、また**適切な防犯対策を採っている(侵入しにくい)ことを周囲に報せる**ということが最も有効な防犯対策になります。ここで言う周囲というのは、外から皆さんの住居を観察している不特定の犯罪者のみならず、使用人や警備員も含まれます。使用人達の情報網は非常に迅速かつ広範ですので、適切な情報を流すことで、身の安全を図れることも覚えておいて下さい。

具体的な方策は、多岐に渡りますので各論の章に譲ります。

(4) 交通事故

首都・地方を含めて遭遇しやすいのが交通事故です。街灯がなく夜は真っ暗な道、高速で走る長距離バス・トラック、急に道路に飛び出してくる人々...等。日本の感覚ですと「自分は100%悪くない」という状況でも事故に遭遇することは少なくありません。また、劣悪な医療状況、不安定な保険サービス、非効率な司法制度等のために、**被害者が負うコストは日本に比べてはるかに高くなります**(保険補償額が、当地基準で設定されているため、著しく低額であること、また、加害者がタンザニア人である場合、(特に公共交通機関の運転手等)は、賠償金支払い能力はほとんど無いと言って良い状況ですので、「**事故に遭った者負け**」となります)。また、期せずして自分が加害者になることも考えられます。この場合、被害者が当地富裕層の人物・政治家・出稼ぎ外国人・援助関係外国人等であると、高額の治療費・休業補償金・慰謝料を請求されることとなりますが、当地で購入する保険ではこれらを賄うことはできませんので、これらに備えて**本邦にて海外旅行保険等に加入しておくことを強くお勧めします**。(詳細は、5(1)をご参照ください。) また、交通ルール等が必ずしも遵守されていない状況がありますので、セルフドライブの際は、常に安全志向の対応を心がけてください。ドライバーを傭上することもご自身・家族等が当事者としてトラブルに巻き込まれにくい方法と思われる。

長距離バスを利用する場合は、周囲の情報を集め、なるべく信頼性の高い会社(スカンジナビア・エクスプレス、キリマンジャロ・エクスプレス、ダル・エクスプレス、カントリー・エクスプレス、スーパーフェオ等)を選定して下さい。運転手の態度や行動(飲酒をしていないか等)に注意することや、車両の整備状況を確認(例えば、前輪タイヤの減り方、空気圧の状況等)しておくことも重要です。

(5) 政治的・宗教的騒乱

タンザニアでは、5年ごとに総選挙(連合共和国大統領、ザンジバル大統領、連合共和国国会、ザンジバル議会、本土地方議会)が実施されます。与党革命党(CCM)が盤石の支持を集める本土の選挙については特段大きな混乱は発生していませんが、与党と最大野党市民統一戦線(CUF)が拮抗するザンジバルの選挙に起因して局所的な騒乱(ザンジバル及び本土の一部)が発生しています。2000年には、ザンジバルのペンバ島等で選挙結果を不服とする野党勢力と当局の間で武力衝突が発生し、30名以上が死亡し、多くの野党関係者がケニアのモンバサに亡命するという事態も発生しました。2005年選挙では前後に一部混乱はあったものの、大きな衝突なしに終了しましたが、依然としてザンジバルでは与野党の確執が残っており、**次回の2010年選挙においても引き続き注意が必要**となっています。

また、選挙以外にも、政府の汚職等に係る野党主催のデモや宗教に関連したデモ(最近ではデンマークの新聞に掲載された預言者モハメッドの風刺画を巡り発生)が発生する可能性があります。

これらの騒乱・デモは通常外国人を対象にしたものではありませんが、**政治・宗教について誤解されるような発言はしない、騒乱を見かけた場合はすぐにその場所から立ち去り関係機関に連絡する**等の対策を取るようして下さい。決して、興味本位で近づかないようにして下さい。また、当地では中国人に対し反感を持っているタンザニア人も少なくなく、騒乱で感情が高ぶっている際に日本人を目撃した場合に、中国人と勘違いされ強盗被害にあう等のリスクがありますので、十分注意して下さい(過去に実際に被害例あり)。

3. 日常生活における防犯・安全対策

(1) 住居の防犯・安全対策(一般的事項)

ア 住宅事情

ダルエスサラーム市内では、住宅建築が進み、住宅事情が少しずつ改善の傾向にあるものの、供給不足の感は否めず、全体的に家賃も上昇傾向にあります。また、地方都市になると外国人向けの物件自体が限られてくるため、ダルエスサラームに比べて選択肢は大幅に限られてきます。さらに、ダルエスサラームであるか地方部であるかを問わず、比較的安全性に優れた居住地区は限定されることから、対象物件の絶対数は更に少ない状況です。

イ 住宅の探し方

セキュリティ、設備、通勤の利便性、家賃、家主の人柄、周囲の環境などの条件を全て満たす優良物件を探すことは非常に困難であり、諸条件の優先順位を決めてから探し始めるのが賢明です。

住宅の探し方は、不動産斡旋業者に依頼する、新聞広告や無料の広告雑誌(「Advertising DAR」)等を見る、在留邦人に聞く、各所にある掲示板を見るなどの方法があります。最近関係者が使用した実績のある業者をご参考まで以下に掲載します。

- Baobabu Development Ltd. 078-4828811,022-2602644
- Estia Real Estate 022.2600444
- Knight Frank, Ursula +255.784471853

- ・ Shaike +255754287470

ウ 住宅選定上の留意点

以下が一般的な留意点となりますので、住居探しを始める前にご確認ください。

(ア) 地域選び

一般的に多くの外国人や富裕層が居住している地域は安全対策(各戸への警備員の配置、警察や警備会社による定期パトロールの実施等)が比較整っており、適した地域と言えます。まずは各地において、このような地域を同定し、同地域を中心に住居探しをすることをお勧めします。ダルエスではムササニ半島、ウパンガ地域、キノドーニ地域等がこれに相当します。

集会がよく行われる場所(ダルエスでは Jangwani Ground, Biahura Ground, Unaji Moja 等)の近く、市内(タウン)中心の商店街の近く、ダウタウン(Manzese, Magomeni, Kariakoo, Mbagara)など、騒乱が起こりやすく拡がりやすい場所は避けてください。また、アメリカ大使館の周辺も避けて下さい。

情報交換、病気のときの連絡、共同で行う防犯対策や緊急時及び夜間の移動の容易さから、日本人が多く住んでいる地域・場所をお勧めします。

乾期に給水が十分でない地域があるので注意してください。また、電気の供給状況も確認しましょう。当該家屋への給水は水道であるか否か。水道でなければ、貯水槽の大きさ、衛生状況等給水設備は良好か否か等、付近住人からの聞き取りを含め確認が必要です。

自宅から毎日通う場所(勤務先、学校、商店など)への安全なルートを2本以上確保しておくことは、行動を一定化させないために是非とも必要です。利用ルートも道幅が狭かったり、一方通行であったりする場合、攻撃(強盗、誘拐など)され易く、また、攻撃を受けた際、逃げ道がなくなり危険です。利用ルートに避難場所(警察署など)があれば、尾行等などの何らかの異変を感じたとき、危険を回避することができます。

(イ) 物件選び

行き止まり、道路の終点近くは避ける。また、雨期にアクセス道路の路面状況が著しく悪くなる物件は避けるようにする(徐行運転を強いられ、カージャックのターゲットになりやすい)。

川や林、空き地に面しておらず、正面を除く家の周囲の3面が、人の居住するきちんとした家に囲まれてことが望ましい。

敷地内に照明が設置されていること、もしくは設置が可能か確認する。

門は頑強な作りであることが望ましい。

フェンスはコンクリート製、頑強な鉄柵製のものがよい。高さは2.5~3mあるのが望ましい。生け垣の場合は、栽植密度を高くして中が見えないようにする。

ドア本体、窓やドアの枠が頑丈であり、内開きで、蝶番が内側にあること。ドアには複数の錠、覗き穴、チェーンロックをつけることが望ましい。

窓には頑丈な鉄格子が取り付けられていること。鉄格子の太さは15mm以上あるのが望ましい。

賊が家に侵入してきても、ある程度の時間、安全を確保できるような場所や部屋(Safe Haven)があることを確認する。

警備会社と契約して、パニックアラームボタン、各種センサーを住居内各所に設置することが望ましい。

ジェネレーター、水タンクの有無を確認する。

車で帰宅したときに、警備員が安全確認や門扉を開けるのに時間を費やすことなく、迅速に敷地内に入れる構造・体制になっていることを確認してください。(門扉の前で長時間待たされることにより、犯罪の対象となるリスクがある。)

昼間に家と周辺状況を確認するとともに、夜間における状況(人通りや照明等)を確認してください。できる限り照明の多いこと、不審な人物がいないことなどが望ましいと言えます。

(ウ)住宅の契約

契約期間は1～2年、支払いは米ドル貨で1年分一括前払いが一般的です。契約書作成の際は解除条項等に注意し、内容を十分確認願います。

また、物件によっては、付加価値税の支払いが必要なケースがありますので、その場合は、家主に要求を確認してください。

(2)住居形態別安全対策

ア 独立一戸建住宅

独立一戸建住宅での生活は、自由度が大きく快適である反面、敷地内には自分たちしかおらず他人に頼ることができないため、自らの安全確保を図るためには、アスカリ(警備員)等使用人の雇用、給水タンク、ジェネレーターの確保等それなりの費用と労力が必要です。考えられる防犯対策として以下のものがあります。

アスカリ(昼夜の警備員)を雇用する。

数匹の犬を飼う。ただし、犬が強盗を撃退するわけではなく、侵入を教えてくれる「センサー」であると考えましょう。

警備会社と契約して、緊急時救援システム(パニックアラームシステム)を取り付ける。異常を感じた場合、躊躇せずにアラームボタンを押すこと。

使用人に関する注意を怠らない。一戸建て住居の場合、過去に生じた犯罪被害の多くは何らかの形で使用人が関与しており、後述する使用人に対する注意事項を必ずお読みください。

敷地内の植え込みはよく刈り込み、賊が隠れられるような場所を作らないことが必要です。

イ コンパウンド・マンション形式

集合住宅となるコンパウンドやマンションの場合、独立一戸建住宅に比べて、個人の自由度が小さく、防犯対策のかなりの部分を管理者側(家主)に依存することになります。

また、不特定多数の人間が敷地内に入り出することも、避けられない条件です。したがって、出入管理がきちんに行われているか、良く訓練されたガードマンが適正に配置されているか、パトロールが行われているか等を常にチェックし、問題があれば、直ちに改善を申し入れることが必要です。

マネージメントが何の対応もしなかったり、対応が不十分であったりした場合でも、あきらめずに繰り返し強く申し入れることが大切です。住人同士で話し合っ、共同で改善を

申し入れることも有効です。

コンパウンド・マンション形式において、特に注意が必要な事項は以下のとおりです。

建物の2階以上であっても、施錠を忘れない。窓・ベランダの施錠の不備について部屋に侵入します。

コンパウンドで、敷地全体の外壁以外にも、自宅周辺に外壁があれば、独立家屋と同様に、アスカリ、犬を配置すること。

一般に集合住宅の玄関・勝手口ドアは、独立家屋の比べて堅固さに劣ります(敷地全体の警備が存在するため)。ドアには複数の錠前や鉄格子等を設置して強化して下さい。

駐車場荒らしに要注意。車内に貴重品を放置しないように注意して下さい。

帰宅時に玄関の鍵があいていたり、入室時に不審を感じたりしたら、すぐに室外に出て管理者側に通報し室内の状況を確認してもらうこと。室内で賊と出会ったら、賊の方も出口を塞がれ自暴自棄な行動に出ることが多いので要注意です。

<ちょっとした工夫で安全性UP - Safe Heavenを決めておこう - >

どんな形態の家でも、外部者から侵入を受けたときに立てこもるための避難室(Safe Haven)を定めておくのが良いでしょう。この避難室は最も侵入されにくく、内側からカギがかけられる部屋を選びます。外部者の侵入を察知した場合は出来るだけ早くこの避難室に避難し、外からの助けを待ちます。

避難室内には電話(携帯電話或いは独立回線で、番号は必要最小限の知人を除いて教えないように注意)を設置し、緊急連絡先リストを備えておきます。電話以外に携帯無線機や強力な懐中電灯、外部に異常を知らせるピラ(高層住宅の場合有効)を常備したり、貴重品(旅券、金銭)を保管する場所を設置したりしておきましょう。その他に避難室内に常備しておく物として、警備会社などに通報する緊急連絡装置、サイレン付きハンドマイク、警笛等、蠟燭、ライター・マッチ、高性能ラジオ、救急キット(医薬品)などが考えられます。

(3)生活行動にかかる対策

どれだけ、ハード面で防御策を強化しようとも、皆さんの日常の行動次第では、それらの防御策も効果は半減します。安全の三原則に立ち返って、次の点に注意して下さい。

ア 環境を知り、土地勘を得ること

自宅周囲の環境、一方通行などの道路事情、地形に馴れることが大事です。緊急時に備え警察、病院、消防機関などの位置や連絡方法・利用方法の他、最寄りの知人宅の位置、連絡方法なども確認しておきます。

イ 隣人との関係づくり

日常の行動は現地の習慣や価値観に考慮し、派手な生活や現地の人々の反感を買うような行動は慎み、できるだけ周囲の住民に溶け込むよう努力します。特に**隣人とは仲良く**し、家族ぐるみで付き合いえるような良好な人間関係を保つように努力することが重要です。また、隣人がどのような安全対策をとっているかも参考となりえます。常日頃から機会ある毎に隣人と会話を交わし、情報収集に努めることが大切です。

ウ 訪問者に対する注意

訪問者があってもすぐには扉を開けず、覗き窓などで訪問者の身元を確認することが重要です。不審な同伴者はいないか、付近に不審者はいないか良く確認して下さい。また、身元を確認した後も、扉を開ける時には安全チェーンをかけたまま細目を開け、再度確認をしてから扉を開けるよう心掛けましょう。訪問者がたとえ親しい知人であっても、見知らぬ人が一緒の時や非常識な時刻の訪問の時には十分な注意が必要です。

予期せぬ品物が届けられてきた時は、その品物を扉の外に置くよう言い、送り状への受取サインは扉の下からやり取りし、配達人が立ち去り周囲の様子を確かめてから扉を開けるようにします。

物売りや電話、水道、電気、ガスなどの工事人などは、**不用意に住居の敷地内に入れてはいけません**。頼みもしない工事人が来た場合には、用件、事務所の名前と電話番号を聞き、覗き窓から身分証明書などによる確認を行い、更に事務所に電話で確認をするくらいの用心が必要です。

< 実際にあったこんな犯罪被害 >

地方都市勤務、一戸建て居住の専門家（単身男性）

専門家が勤務中で留守の間に、水タンクをチェックしに来たという男性 3 名が来訪。使用人が 3 名を敷地内に入れたところ、3 名は賊に変貌し使用人を縛り上げ住居内にあった貴重品を奪って逃走。なお、このケースは、たまたま警備員が不在であった時間帯を狙われたもので、後に専門家が雇用していた庭師が犯人グループと共犯であったことが判明した。

地方都市在住、マンション居住の専門家（単身女性）

専門家の不注意により玄関のドアを施錠しないで就寝していたところ、朝 5 時半に隣人の男性が呼び鈴を鳴らした上で住居内に侵入（専門家は早朝の呼び鈴を不審に思い寝室から出ず）。隣人は寝室付近まで近づき、酔った様子で専門家に話しかけてきたため、専門家は寝室ドアを施錠し、即刻退室するように促したところ、隣人は謝罪の上退室した。仮に呼び鈴に応じて玄関まで行っていた場合は何らかの被害に巻き込まれていた可能性も考えられる。

エ 使用人に対する注意

使用人は家族と 1 日のうち長い時間に過ごし、家族に関する多くの情報に接する立場にあります。従って信頼できる使用人を雇用できるか否かは外国で安全に生活を送るための重要な鍵となります。**使用人を雇う際には、先ずは身元調査**を行います。一般公募によらず、信頼できる人から紹介を受けるのが一番です。そして可能な範囲内で、使用人の経歴、家庭環境、住居の所在などの情報を得ておくことも重要です。**使用人には、家族同様しっかりした安全対策の心得を教え、教育する**ことが必要です。来訪者に対する警戒、電話応対時の注意、特に家人が不在の場合の外部からの問い合わせに対する対応要領などを徹底的に教えておきます。使用人が不用心ではいくら警備対策を実施してもまったく意味がなくなります。

使用人に対し、家人不在時の緊急連絡先を教えておくことは必要ですが、**行動予定を逐一伝える必要**はありません。

また、使用人に隙を見せてはいけません。貴重品や現金を不用意に放置しておくことは、つ

い出来心で盗みを働かせてしまう結果となる可能性もあります。また、**プライドを傷つけたり、恨みを買うような言動や行為をしたりしてはいけません。**

使用人が犯罪の手引をしたり、犯人に利用されたりする場合がありますので常日頃から使用人の言動、態度、外出、休日の行動、心情の変化などに対する注意を怠らないようにします。

使用人が複数の場合、統制をとるべく責任者を指定しましょう。また、使用人を解雇する場合などは、退職手当を支給したり、その後の職探しのために紹介状を書いたりなどの配慮が必要です。

なお、当地では、個人が雇う使用人であっても最低賃金や手当、休暇、解雇条件等が法律により定められています。主要法令は、「Employment and Labour Relations Act, 2004」、「Labour Institutions (Regulation of Wages and Terms of Employment) Order, 2007」があります。

オ 家族の協力、家族の注意

まずは**家族の安全は家族全員が一致協力して守る**との心掛けが必要です。その為にも家族に対しても安全に関する教育を徹底しておきます。最近起きた事件の概要や教訓事項などを機会ある毎に、配偶者もちろん子供にも話し十分注意します。家族一人一人が住宅に異常を発見した時の行動を適切にとる必要があります。また、非常時の連絡手段及び連絡先を知っておくことが大事です。

家族の日程、習慣、旅行の計画、その他の家族の行動についての計画をむやみに人に話さないようにします。

緊急事態や事件はいつ起こるか分かりません。家族全員の行動、居場所を常に把握し、いざという時にはお互いが直ちに連絡をとり合えるようにしておきます。各家庭内で緊急時を想定した訓練などを実施することもお勧めします。

カ 外出時の注意

外出前に使用人などに外部から問い合わせがあった場合の返事の仕方、注意事項(居場所、帰宅予定時間を教えない)などについて指導をしておきます。外出するときは、戸締まり、施錠漏れ、火の不始末がないか今一度確認してから出かけるよう習慣付けます。帰宅時は自宅の周囲に不審者が潜んでいないかどうか良く確認し、安全を確かめてから自宅に入るよう注意が必要です。

日中でも街中を歩くことは極力避け、**基本的に出来る限り車で移動**して下さい。特に、過去に歩行者が強盗等に襲われている場所(ダルエスではKariakoo、Ocean Road、Toure Drive、Selander Bridgeなど)については徒歩での移動は避けるようにしてください。人通りの多い場所で買い物をするときはスリに注意をします。**携帯電話がスリにとっての恰好の標的**となっているので、携帯電話はカバンの中にしめたり、サイレントモードにしたりするなどの配慮が必要です。

また、**日没後の徒歩・自転車での外出は絶対に避ける**ようにしてください。日本人を含めて日没後の徒歩移動時に犯罪被害にあったケースは多々あり、また交通事故に遭遇するリスクも大きくなります。また、日中であっても徒歩・自転車にて移動する場合は、交通事故に注意する必要があります。日本とは異なり、歩行者より車が優先されますので、道路を横断する際などには十分余裕をもつようにしてください。

休日の度に、同じ時間に同じコースをジョギングする、同じレストランを利用するなどの、パターンの決まった行動は狙われる危険がありますので、ときどき場所や時間を変えて下さい。また、銀行、換金所、宝石店等、強盗のターゲットになりやすい場所には必要以上に長居しな

いようにしてください。

外出のときでもパスポートや滞在許可証などのコピーを持参し、身分証明書代わりにすることをお勧めします。

<実際にあったこんな被害>

夜間に日本語補習校でのイベント手伝いを終えた邦人が、同校からメインロードまでの約50Mを徒歩で移動中に、突然後方から賊が鈍刀(パンガ)を振りかざし襲ってきた。同邦人は振り返りざまに額にパンガを受けて倒れたが、何とか起き上がりその場から走って逃げようと試みた。しかし賊グループに執拗に追いかけられ、また額からの流血も激しかったため、逃走を諦め財布と携帯電話を賊に渡したところ、賊は退散した。同邦人は額を4針縫う怪我を負った。

夜間にダルエスのMikocheni地区のBarが立ち並ぶ通りを徒歩で移動中の邦人が、後方から走ってきた飲酒運転の車に撥ねられ、両足の骨を折る重傷を負った。夜間は暗闇というリスクの他に飲酒運転のリスクも増すため、交通事故に遭遇する可能性が高くなる。ダルエスのニューバガモヨ道路沿いにあるレストラン(インド料理ANGHETI、邦人も良く利用する)に夜間営業時間中に武装強盗が侵入し、店内にいた客及び店員を全員床に伏せさせた上、一人ひとりから貴重品を巻き上げ悠々と退散した。邦人も被害に遭った。

キ 社交活動における注意点

タンザニアでの社交活動においては、現地の人々の悪口、民族・種族的問題、宗教や文化、習慣などについて、周囲の人の反発を買うような発言を行うことは避けるようにします。特に飲酒などに厳しい地域(ザンジバル)においては、日本のように「羽目を外す」ことは、周囲の人間に不快感を与えますので当然差し控えるべきです。イスラム教徒が多い地域では特に**肌を露出するような服装にも十分注意が必要**です。

なお、日本における商習慣に応じて初対面の人に名刺を配ることは、不用心になることもありますし、名刺には自宅の電話番号は印刷せずに、必要な場合のみに手書きで加えるようにします。

街中で出会ったタンザニア人に騙されて被害に遭うケースも頻発しています。手口は様々で、**日本語で話しかける、JICAを知っていると言う、知っている日本人の名前を言って安心させる、音楽を見に行こうと誘う、スワヒリ語を教えると誘う**、等が常套手段となっています。町中で知り合い親しくなった人と歩いている時に、その友人がたばこを吸い始めたのを見計らったように警官がやって来て、「こいつはマリファナを吸っている。お前も仲間だから逮捕する。逮捕されたくなければ金を払え」という、警察もグルになった犯罪も発生しています。こうした警官による犯罪の場合、まず本物の警官であるかの確認のため身分証明書の提示を求めましょう。警官によっては本物偽物に関わらず個人名が判明することを恐れているので、ここで引き下がることもあります。また、警察から不当な罰金等の支払いを求められたときは、Official Receiptの発行を求めましょう。また集団に囲まれてしまった場合は、何らかの方法で警官一人だけ切り離して(例えば、車に一人の警官だけを乗せて、他の場所に移動して交渉する)、交渉しやすい環境を作るのも手です。

ク 電話及び通信手段

携帯電話器は2つ以上の回線を確保し(VodacomとZainというように異なる通信会社のSIMカードを購入しておき)、片方の回線が不調なときに備えることも必要です。

固定電話の場合、自宅の電話番号、住所などは、電話帳に載せるようなことはせず、限ら

れた人にしか電話番号を教えないように注意します。

日本の習慣でつい電話をとる時に、こちらから名乗ってしまいますが、犯人が探りを入れるための電話である可能性もあるので、相手が名乗るまではこちらから名乗るのは避けるべきです。「間違い電話」に対して不用意にこちらの電話を教えたりすることは、相手に情報を与えることになり危険です。少しでも不審な感じを受けたら、番号違いと言って電話を切ります。

家族や使用人には相手が確かでない限り、こちらのスケジュールなどを教えないように指導し、電話の内容が不明確な場合には、例えば「今、手が放せないので主人が後で直接電話する」と言って相手の電話番号を聞き、これを主人に伝えるといった電話応対時の注意事項を伝えておきましょう。

万一脅迫電話がかかってきた場合、落ち着いて対処し、メモなどに要件と相手の声等の特徴を書き取るなどし、すぐに関係機関や当局に連絡がとれるよう緊急時の処置を各人が知っておく必要があります。

また、当地でも知人や政府高官を騙り、金品を騙し取ろうとするオレオレ詐欺も発生しておりますので注意してください。

ケ 鍵

鍵は警備対策上の基本であり、その取り扱いには細心の注意を払います。住居の鍵は勿論、勤務先の鍵、車の鍵についても厳重な注意が必要です。鍵は常時携帯し、自宅内でも机の上や誰もが見つけやすい場所に掛けておくようなことはせず、他人の目につかない場所に保管しておくことが必要です。また、紛失を防ぐために鍵には鎖や紐を付けることをお勧めします。鍵は、本人と家族のみが持ち、原則として使用人などには貸与すべきではありません。前の居住者がスペアキーを持っていることもありますので、**入居する時は重要な鍵は全て新しいものに交換する**必要があります。鍵を紛失した時は、必ず錠前を交換しなければいけません。錠前の取り付けや予備錠の作製は、信頼できる業者だけに委託することが大事です。

コ 休暇などの際の措置と対策

長期間不在とする場合、特に独立家屋はその間全くの無防備となります。例え犯人が侵入したとしても生命の危険はありませんが、家財を盗まれることを考え次の措置を取ることが考えられます。

まず、住居用安全システムとして、侵入者センサー(Intruder Sensor System)を取り付けるのもひとつの手です。次に、不在の間信頼できるガードマンを雇用することも有効ですが、この場合、ガードマンは、日頃から雇用している者に限られ、不在の間だけに限り雇用することは好ましくありません。住居の鍵を信頼できる知人に預け、時々住居の状況を点検してもらったり、ゴミを出してもらったり、カーテンを開けてもらったりすることは、家人が留守であることを確認できないようにする上で効果があります。自動タイマーで、TVやラジオなどが作動するようにしておくことも同様の効果が得られます。

(4) タクシー利用上の注意

ア タクシーの選び方

タンザニア本土では、タクシー、レンタカー、ミニバス等の業務用車両は白ナンバー、一般車両は黄色ナンバー(外交官ナンバーは緑、国際機関ナンバーは水色、援助によるプロジェクト車両は赤(DFP))ですので、白ナンバーのタクシーが正規の営業登録を得たタクシーとなります。

また、ダルエス市内では登録済みのタクシーはドアの外側に黄・緑・青いずれかのラインが引かれていますので、このラインの有無もタクシーの信頼度をはかる目安となります。

一方で、白ナンバーや登録マークはあくまで最低条件に過ぎず、これらをクリアしているタクシーでも車両不備や無謀運転等が多く見られます。乗る前に、必ず車両の状況(目立った事故跡の有無、タイヤの空気圧、ドアロック・窓閉めができるか等)を確認してください。ホテルやタクシー乗場等の信頼できるタクシーを利用することをお勧めします。

また、**信頼できるタクシー運転手の電話番号を入手し、必要な際に予め手配しておく**ことが最も安全なタクシー利用法となりますので、周囲の日本人から信頼できるタクシー運転手情報を確保することをお勧めします。

イ 値段交渉・支払い

料金は、事前交渉制ですので、必ず乗る前にいくらでどこまで行くかという合意に達してから乗りましょう。乗ってからの交渉となると後々揉め事に発展する可能性があります。また、乗っている途中で再度ごねてくる運転手もいますが、毅然とした態度で一度合意した値段は変えられないと宣言すると納得することが多いです。タクシーを利用するとき、帰路のピックアップも併せて(つまり往復で)交渉することもできます。往路と復路で別々のタクシーを使うより、幾分か割安になるとともに、交渉も一回で済みます。ただし、目的地に着いたときに全額支払ってしまうとタクシーがそのまま帰って来ないこともありますので、まずは合意額の3-5割程度支払い、全行程が終了したときに残額を支払うのが良いでしょう。

ウ タクシー強盗に注意

数年前からタクシー客をターゲットにしたタクシー強盗が頻発しており、JICA 関係者を含めた多数の日本人が被害に遭っております。手口は似通っており、運転手以外の者が最初から乗っている、または途中で乗ってくるケースがほとんどで、乗客にとっては数的不利な状況を作られた後、人気のない場所にタクシーで連れて行かれ、ナイフ等で脅され金品を巻き上げられる(その後はタクシーから出され、置き去りにされる)というパターンとなっています。**運転手以外が乗っているタクシーは利用しない**(途中で乗ってこようとした場合はクレームをつける又はそのタクシーから降りる)等の対策が有効と考えられます。

(5) 騒乱・暴動等の非常事態に備えての準備事項

タンザニアは政治的にも宗教的にも安定していると考えられていますが、万一の事態の発生可能性は否定できません。以下に、普段から気をつけておくことを挙げます。

旅券: 緊急待避が必要な事態となった場合、一時退避や本邦へのトランジットのための第三国への入国に当たり旅券の残存期間が支障となる場合があります。(ケニア: 入国時の残存期間が6ヶ月以上、UAE: 同3ヶ月以上、オランダ: 出国時の残存期間3ヶ月以上など)従って、できる限り、6ヶ月以上の残存期間があることを心がけ、必要な場合は更新をお願いします。また、旅券の紛失が頻発しているため、日頃の管理には細心の注意をはかるように徹底ください。

現金: 非常事態になった場合は外貨の獲得が困難になるため、非常事態に備え日頃から、ドル現金の準備をお勧めします。目安として大人1人につき 3,000 ドル(1,500 ドルの航空券代、1,500 ドルの生活費)程度です。

貴重品：キャッシュカード、クレジットカード、小切手等の貴重品及び常備薬はまとめておき、旅券、現金とともにすぐに持ち出せる準備が必要です。また、小型ラジオ・懐中電灯、電池なども併せて準備しておくとう便利です。

非常用食料：通常、暴動等は3日程度で沈静化するケースが多いようですが、その後市場に食料が出回るかは疑問であるため、余裕を持って2週間自宅待機できる食料（飲料水、米、缶詰、インスタントラーメン等）を確保しておいて下さい。

4. 自動車に関する防犯・交通安全対策

タンザニアでは、自家用自動車は一般庶民にはまだまだ手が届かない高級品であり、それが故に自動車そのものや部品をターゲットにした盗難も多く、乗っている人間を狙った強盗等も発生しています。

また、運転中、歩行中ともに交通事故に遭遇するリスクは以下の要因によって日本に比べて格段に高くなります。

- 運転マナーが悪い（スピード超過、急な車線変更等の交通ルール無視）
- 整備不良の車両が多い（ライトが点灯しない、摩耗したタイヤ、ブレーキ不調等）
- 道路の路面状況が悪い（ポットホール、雨期の浸水、未舗装路）
- 信号の故障が多い、交通ルールが不徹底（停電や機器の不具合による）
- 飲酒運転が多い（タンザニア人、外国人問わず夜間の遅い時間に頻発）
- 歩行者が車に慣れていない（急な飛び出し、車を避けない等）
- 警察の取締りが不十分である（警官不足、統一的ではない取締り、賄賂目当て等）
- 街灯が少なく夜間は視界が限られる（歩行者が確認できないほどの暗さ）

こちらに過失は全くないにも関わらず事故に巻き込まれることも少なくなく、また、保険制度など事故に遭遇した際の補償制度も不十分であるため、ご自身そしてご家族の安全確保のために交通事故に際しては細心の注意が必要となります。

以下に、自動車に関する防犯及び交通安全対策について基本的事項をご紹介します。

(1) 運転免許・自動車保険

ア. 運転免許

本邦で取得した国際免許証を交通警察で裏書きしてもらうことで国内免許と同様に使用することができます。しかし、有効期間が一年であるため、休暇帰国のたびに本邦において取得しなおす必要があります。

イ. 自動車保険

万一の場合に備え、車の盗難や事故時の修理及び他人を傷つけてしまった場合の治療費等の支払い額をカバーできる**保険に加入**する必要があります。タンザニアにおいて代表的な保険の種類には以下の2つです。

総合保険 (Comprehensive) : 自損事故補償、対人・対物補償、車輜盗難補償

第三者保険 (Third Party) : 対人・対物補償、車輜盗難補償

なお、2(4)に記載の通り、当地保険では補償できない高額な賠償に備えるためには、本邦で別途海外旅行保険に加入することをお勧めします。当機構から派遣される方々等国際協

力共済会に加入されている方々は、家族総合賠償責任(自動車損害賠償責任危険担保特約付き)海外旅行保険に加入されますと、当地自動車保険で補償されない部分について最大3億円まで保証されます。(但し、自動車事故の場合には免責3万ドル)本保険に関しては、(株)国際サービスエージェンシー保険業務課(TEL03-5909-5183、FAX03-3348-8481)にお問い合わせください。

(2) 車両への防犯対策

車両への適切な防犯対策は、多くのJICA関係者の方が実践されています。以下に代表的な防犯対策をご紹介します。

警報装置の設置:車両に強い衝撃が加えられたり、ドアがこじ開けられたりした際などに警報が鳴るもの。(Multi Lock社にて設置可能)

ドアキーの強化:通常はエンジンと同じ鍵でドアが開く場合が多いですが、ドアのカギを特殊な防犯キー(Multi Lock社製の合鍵がつくれないもの)と取り換えることによって車内への侵入が困難となります。

ギアロックの設置:車両内部のギアを固定するためのもの。仮に車内に侵入された場合でもこのロックがあれば車を発進させることはできない。(同じくMulti Lock社にて設置可能)

窓、ミラー等へのナンバー彫り:車両番号を彫ることにより、窓(フロントガラス含む)やサイドミラー等の部品盗難を防ぐもの。ナンバー彫りが施されている部品は盗難したとしても売れないため、犯人は避ける傾向にあります。過去3年間関係者のサイドミラー盗難は数件ありますが、全てナンバー彫りをしていない車両となっています。(市中のガレージや特定のガソリンスタンドなどで実施可能)

<実際にあったこんな被害>

夕刻の帰宅ラッシュ時に、セルフドライブをしていたJICA関係者がJICA事務所前のオハイオ通りからアリハッサムウィニ道路へ入るために右折車線に並んでいたところ、少年2名が車の両脇へ近づいてきた。物乞いと思い無視していたところ、少年が急にサイドミラーを両側からもぎ取り逃走。同関係者は車両から出て少年を追いかけたが逆に転倒して擦り傷を負った。ナンバー彫りを施す、渋滞時でも前の車両との車間距離を保つ等の対応でこのような被害を避けることができる(物乞いとすれ違う瞬間にアクセルを軽く踏み車に触らせる隙をつくらない)。

(3) 日常の車両整備

車は定期的に点検し、異常があれば直ぐに整備して良好な状況にしておきます(**3,000km走行を目途に定期点検**に出されることをお勧めします)。車には、故障した際の修理道具(ジャッキ、スパナ等)、スペアタイヤ、牽引ロープ、バッテリー用ケーブル、リフレクター、などとともに、余裕があれば予備の水・オイルなどを常時積載しておきます。また、事故・故障時に目印として車両後方に設置する**トライアングル及び小型の消火器はタンザニアの法律で常に積載することが義務付けられています**ので、必ず購入するようにしてください(これらを積載していない場合は1点につきTsh.20,000の罰金が科せられます。両者を積載していないと2点、罰金Tsh.40,000となります)。

また、「目立たない」ために、派手なステッカーなどを貼ることは避けましょう。

警察の検問では、**車の登録証、免許証、保険加入、及び交通安全ステッカー**(年に一度交通安全週間に最寄りの警察署にて車検を受けた上で購入)をチェックします。これらのステッカーは必ずフロントガラスの左側(日本車だと助手席側)に貼付してください。なお、免許証は

必ず携行するようにし、有効期限が切れていないかを小まめに確認するようにしてください。

(4) 運転・乗車時の注意事項

ア 乗降時の安全対策

車の乗降時が最も危険で狙われやすいので、周囲に不審な人物はいないか注意し、少しでも異常を感じたら安全が確認されるまで乗り降りしないようにし、帰宅時も同様に周辺の安全を確認した上で自宅に入るようにします。また、自宅に着いたら直ぐに門を開けるよう、日ごろから警備員に教育をしておきましょう。また、**乗車時には必ずシートベルトを着用し、すぐにドアの施錠**をするようにしてください(運転手にも徹底)。タンザニアでは、運転席及び助手席で着用が義務となっておりますが、**後部座席に座る場合にも着用**することを強くお勧めします。

イ 通行ルート

犯罪者にとり、毎日同じ時間に同じルートを使用する者は、一番狙いやすい標的です。通勤、通学、買物、レクリエーションなどの時の行動がパターン化することを避け、経路や時間を変えるように常に心掛けます。ほんの少し行動パターンを変えるだけでも犯罪を防ぐ上では効果的です。

また、目的地迄の道路事情は前もって調査しておき、脇道や一方通行、人通りの少ない道は利用せず、できるだけ交通量の多い大通り、照明が充分な通りを通るようにします。停車時に近付いてくる物売りなどにも注意を払うようにします。

ウ 走行中の防犯対策

走行中は全てのドアをロックし、窓は閉めるか、またはわずかな隙間だけ開けるようにします。走行中であっても外から見える位置に貴重品を置いてはいけません(駐車中も同様)。追突事故や誘拐・襲撃などの危険性を考え、どのような事態が起きてもすぐに回避行動がとれるよう走行時、停車時を問わず**車間距離を十分保つ**ことが大事です。

走行中の周囲の状況確認は運転者だけに任せることなく、同乗者全員が注意を払う必要があります。また、夜間はなるべく一人で運転しないようにしましょう。夜間遅くの走行については、カージャックや事故に遭遇するリスクが高くなりますので極力さけるようにしてください。また、スピードを緩めざるを得ないポイント(主要道路と繋がるT字路や速度を落とすために道路を横断する形で設置されているバンプ付近等)は通らないように工夫することも重要です。

<実際にあったこんな被害>

ダルエスのToure Driveは人通りが少なくなる夜間遅くにカージャック被害(未遂含む)が頻発している区間です。これまでの被害はCanadian Residence前のバンプ付近や半島内部の小路からToure Driveに繋がるT字路で生じており、道路脇に潜んだ賊が車のスピードが遅くなったタイミングを見計らってドアや窓をこじ開けようと試みるものです。Toure Drive沿い、Golden TulipホテルとSea Cliffホテルのほぼ中間に位置する取り壊し中のアパート付近で同様の被害が発生しており、外国人カップルが夜間走行中に賊に囲まれて窓を割られています。

エ 走行中の交通安全対策

タンザニアでは本章冒頭で紹介した要素に起因して、交通事故の発生件数が非常

に多くなっているため、経験豊富な運転手を雇用しセルフドライブは極力避ける方が無難です。特に赴任直後で道路・交通状況に慣れていない状況ではセルフドライブは避けるようにしてください。以下に乗車中・運転中の詳細な注意事項をご紹介しますので、運転手にも徹底するよう指導願います。

(1) 交通法規

交通法規、交通慣習、交通事情に関しても日本とは若干異なる点があります。注意が必要です。タンザニア国内では、基本的に、国際基準の交通法規に準拠しており、日本と同様左側通行です。しかし、交差点及び信号機の種類が日本式と英国式が混在しているため、困惑することがあります。日本と交通法規が異なる例として、日本式の矢印信号機で右折するときは、青信号であっても赤信号に変わり右折の矢印が点灯するまで右折は禁止です。またT字交差点では、赤信号で右折矢印が点灯していれば対向右折車がないため直進可能です。

ウィンカーの使い方についても日本と異なる点があります。交差点を渡るときにハザードを点灯した車は直進をするという意思表示です。幹線道路で後続車両に対して、右ウィンカーを点滅させている場合は、対向車があるため、追い越し危険という意思表示、左ウィンカーの場合は、後続車両が安全に追い越しできるという意思表示となります。

法定速度は、市内は50キロ、幹線道路は80キロであるが、ほとんどの車は守らず走行しています。特に、幹線道路沿いにある村落では、その間だけ50キロ規制されており交通警察によるスピード違反の取締りがよく行われています。

信号機が設置してあるが、停電であったり、バルブが切れていたりして点灯していない場所もよくあり、その場合、他の車に十分注意をし、交差点を走行する必要があります。また、青信号であっても、赤信号を無視した車が突っ込んでくる場合もあります。信号が動いていても交通警察が誘導している場合も多い(特に朝夕の通勤時間帯)ので、警察の姿が見えればそちらの指示に従ってください。制限速度が低い場所(学校の前など)にはバンプ(盛上げ)が道路上に設置してあり、その前ではスピードを落として走行する必要があります。

(2) 罰金、罰則

駐車禁止区域または、超過料金を払わずに駐車したままであると、交通警察や市の契約業者が車両を市指定の駐車場にレッカー移動します。車両を引き取る際には違反金およびレッカー移動代金を支払い、領収書を提示して車両を引き取ります。

ダルエスサラーム市外を出ると、州(県)境に、交通警察による検問が頻繁に行われています。その際に、運転手の免許証、車両登録証、車両保険証等の書類が検査されます。車両搭載品の非常用三角反射鏡の所持についても確認が求められることがあります。また、シートベルトの着用も義務となっています。

スピード違反、信号無視、必要書類の不携帯等、違反が確認されると、警察署に出頭し罰金(Tsh20,000 ~ 40,000)を払う必要があります。ほとんどの場合検問を行っているところに県警察署が設置されているので、そこで支払い、領収書が発行されます。

劣悪な交通マナー

一般的にタンザニアでの交通マナーは日本に比べて遥かに劣ります。特にミニバス(ダラダラ)やタクシーは運転マナーが悪く、急停車・急発進、急な車線変更、無理な割り込み、信号無視は日常茶飯事で、ダラダラやタクシーが関係した交通事故が頻発しています。これらの横暴な運転に腹など立てずに、十分に車間距離を取る、運転速度を落とす、無謀運転をする車両には近づかない等の対策を取ってください。また、片側1車線にも関わらず無謀な追い越しをかけてくる車両が後を絶ちません。右折のため速度を落とした途端に後方車両が右側から追い越しをか

けてきて事故に至るケースもあります。自分が速度を落とした場合、または前の車のスピードが遅い場合などは後方の車両が追い越しをかける可能性があることを十分想定して運転してください。

不備のある車両が多い

ヘッドライト、ストップランプ、方向指示器等が壊れた整備不良の車両(欠陥車)、見通しの悪いところに停車中の故障車、超低速車、タイヤがはずれたり車軸が折れたりして急停車する車両等に対して注意が必要です。特に危険なのはライトが故障したまま夜間に走行している車両です。ライトが一つしか見えないので二輪車と思っていたところ、すれ違う直前に大型のローリーであることを確認し、慌ててハンドルを切るということも珍しくありません。これら整備不良車への対応としても、速度を落とし、十分な車間距離を取ることが肝心となります。

道路の路面状況が悪い

道路はバンプや舗装が破損して陥没しているところに十分注意して下さい。特に舗装道路が陥没しているところ(ポットホール)はパンクを誘発します。また、未舗装路は、特に雨季に予測のつかないほど道が痛んでいる場合も多いので、路面を確認しながら運転してください。さらに雨季には一部の道が浸水し、走行自体が困難になる場合もあります。

信号機が故障している、信号ルールが不徹底

停電や機器の不具合を理由に信号機が機能していないことも珍しくありません。その場合は左右を十分確認した上で徐行にて交差点を通過するようにしてください。また、朝夕の通勤時などは信号機に関係なく、交通警官が手信号で合図を送っているため、その場合は警官の手信号に従うようにしてください。また、赴任して間もない方にとって困惑されるのが、信号機のルールが場所によって異なることだと思います。一般的なルールとしては、赤信号でも左折可、青信号であっても右折は不可(右折は矢印信号を待つ)となりますが、交差点によってはこのルールが適用されない場所もあるため(矢印がでない信号では青信号で右折可など)、赴任後早い段階で経験豊富な運転手や周囲の日本人関係者等に確認されることをお勧めします。

飲酒運転が多い

飲酒運転に起因した事故も非常に多く発生しておりますが、警察の取り締まりが甘いことと飲酒運転禁止に関する社会通念が弱いことにより、ほぼ野放しとなっています。JICA関係者については、**飲酒運転は厳禁となりますので**、外出先で飲酒をされる場合は、タクシー利用、運転手同行又は他の関係者の車に同乗する形としてください。夜遅い時間の運転は周囲の車が飲酒運転であることを十分想定の上、通常以上に安全運転に努めてください。夜間はタクシー運転手も飲酒している場合がありますので、確認のうえで乗車してください。

歩行者に注意

タンザニアの歩行者は、日本に比べて車に馴れていないため、急な飛び出しや道路の中央を悠々と歩くことなども珍しくありません。また、道路脇をリアカーやアイス売りの自転車等が昼夜問わず通行しており、これらに対しても十分注意しながら運転する必要があります。

警察の取締りが不徹底、不合理

タンザニアの警察は、絶対数が足りないことに加えて、無線やパトカー等の機材も著しく不足している等、交通事故対策については完全に後手に回っています。また、薄給の上に執務環境が過酷であることもあり、警察官としての倫理が十分醸成されず、逆に不当な取締り等によって賄賂を要求してくるケースも少なくありません。一方で、政府要人の通行時等の交通規制については徹底されており、長時間一般車両を通行止めに

した上で要人の車両を通過させるため、渋滞に拍車がかかることがあります。

街灯が少なく夜間は視界が限られる

最近では街灯が増えてきましたが、まだまだ夜間は真っ暗な道が多いため、運転時には細心の注意が必要です。その暗さ故に夜間は多くの車がハイビームで走行しており、対向車のライトに視界を奪われることもあります。また、暗さ故に歩行者に気がつかない場合もあるため、夜間でも歩行者が多い道(ダルエスのハイレセラシエ道路等)を通る際にはスピードを落とすよう留意してください。また、雨期には暗さ故に道路脇の大きな水溜りに気づかずに、高速のまま突っ込みハンドルを取られるケースもありますので、雨期・夜間の運転には特に気をつけてください。

その他

<モブ・ジャスティス>

仮に事故の加害者となった場合、付近の群衆が加害者を取り囲みリンチを行うことがあります(モブ・ジャスティス)。自分の身に危険を感じた場合は、事故現場で車を降りずに、直ちに現場を離れ最寄りの警察に行くようにしてください。当国法令では被害者を直に救援することに代えて直に最寄りの警察に事故を通報してもよいことと規定されています。

<実際にあったこんな被害>

専門家がプロジェクトの車両でタンザニア人の同僚と出張中に、不注意で道路に飛び出した自転車と接触し、自転車に乗っていた人が道路脇に倒れた。付近にいた人々が集まってくるのを確認したタンザニア人同僚は、運転手にその場を離れるように指示し、数キロメートル離れた警察署へ行き事情を説明。その後、警察官と運転手のみにて現場に戻り、被害者の無事を確認した。事故の加害者になった場合は、被害者の身を案じることもさることながら、自分の身の安全を十分に確認してから次の行動に移ることが大事です。JICA関係者の家族が自家用車で3レーンの3車線目を走行中(運転手あり)、左車線から中央分離帯を越えて3レーン目に急に入ってきた車両と衝突した。幸い同家族は後部座席でシートベルトをしていたため怪我には至らなかったが、車を損傷する被害となった。

(5)交通違反について

交通違反を犯した場合の罰金は 20,000Tsh から違反の大きさに応じて高くなります。違反を警官にとがめられたら、まず警官が本物であるかの確認のため身分証明書の提示を求めるとともに名前、所属署、Force Number(普通警官の左胸のナンバープレートに書かれている)をチェックしましょう。本物であった場合、正式には、違反者の免許証をひとまず警官が没収し、代わりに Offence Notification を発行します。これをもとに裁判所に支払い、領収印を受けたら、初めて管轄署で免許証が返却されると言う手続きになっています。これに対して、その場で支払いを求められるのは 100%賄賂ですので注意して対処して下さい。また、免許証が警官から管轄署に届けられるまでの間に紛失してしまうこともありますので、Notification 発行時に警官をその管轄署まで車で送り、彼の机に保管するのを見届けるのが一番安全と言えます。

5. 事件・事故発生時の対応

実際に事件・事故に遭遇した際にはどのように行動したらよいのでしょうか。

事件・事故に遭遇した後は、気が動転しており、冷静に行動するのは容易ではありません。状況もケースバイケースで異なり、ここで説明するとおりに物事が起きるとは限りません。

しかし、一般的な行動の原則を知っておくことにより、実際に被害に遭った際でも、多少は落ち着いて判断・行動することができるはずです。また、なんらかの被害にあった場合は、速やかに所定の様式に基づき、**犯罪被害報告書**を関係機関に提出願います。

(1) 交通事故に遭ったら

ア 対処の原則：加害者となった場合

モブ・ジャスティス(群衆によるリンチ)を受ける危険がある場合は、直に現場を離れ最寄りの警察署に行き、事故の報告をした後警官とともに現場に戻り事後処理する[自分の安全確保]。

モブ・ジャスティスの危険がない場合には、直に警察へ通報する[早期の通報]。自らもけがをして病院での手当が必要な場合は、近くの人に警察への通報を依頼する。

相手にけがをさせた場合、まず、モブ・ジャスティスの可能性がないか確認した上で、可能性がなければけが人を自分の車あるいは救急車により病院に搬送する。同時に警察へ通報する[負傷者のケア]。

自分の安全が確保されるのであれば、現場から車を動かさない[現状維持]。

けが人や車を動かさなければならぬ場合は、後から確認できるようにけが人の倒れた場所、車の位置に何らかの印をつけておくが良い[事情確認の容易化]。

事故車輛が牽引されるときは盗難防止のため中の荷物をすべて取出す。

警察への説明は簡潔に行う。

安易な示談は保険求償できなくなるので危険。後で相手の態度が豹変する可能性がある。必ず、警察に届けて Police Report を作成願います。

イ 対処の原則：被害者となった場合

警察へ通報する[早期の通報]。自らがけがをして通報が困難な場合は、近くの人に警察への通報を依頼する。

相手を逃がさない。周囲に人がいれば、加害者確保の協力を頼み、また、目撃証人となってもらうよう依頼する。

警察を待っている間に相手の免許証番号、保険会社・番号、氏名、職場、連絡先を書き取る[当事者の把握]。

安易な示談は保険求償できなくなるので危険。後で相手の態度が豹変したり、姿をくらましたりする可能性があります。必ず、警察に届けて Police Report を作成願います。

事故車輛が牽引されるときは盗難防止のため中の荷物をすべて取出す。

警察への説明は簡潔に行う。

ウ 警察による手続き

現場検証立ち会い

現場を管轄する警察署からポリスレポートを入手する。
交通警察署に車輛を搬送し、インスペクションレポートを作成してもらう。

エ 保険会社との手続き

保険求償する場合、ポリスレポート、車輛の状態を写した写真(全景写真と修理が必要な箇所の写真をナンバープレートと一緒に写るように撮る)とともに申請する。
修理代の一時立替払い
後日保険会社からの払い戻し(かなり時間がかかる)

(2) 車輛強盗に遭ったら

ア 対処の原則

声を出したりせず、冷静になる。
無抵抗に徹する。
車輛を含め盗りたいものは盗らせる。
犯人を刺激しないため、相手の顔を見つめたり、不用意に動いたりしない。
同乗者がいれば降ろしてもらうよう頼む。
シートベルトは許可を得てからはずす(銃を出すと勘ぐられます)。

イ 解放されたら

関係機関に連絡する。
警察へ届け事情聴取を受ける。
ポリスレポートを入手する。

(3) 路上強盗に遭ったら

ア 対処の原則

抵抗しない(暴力的手段に訴えない)。
犯人を追いかけない。

イ 犯行後

関係機関に連絡する。
警察へ届け事情聴取を受ける。
ポリスレポートを入手する。
旅券が盗品に含まれる場合は、速やかに大使館に報告するとともに大使館への再発給申請が必要となる。

(4) 家宅侵入強窃盗に遭ったら

ア 対処の原則

自宅に帰った時に異変を感じたら、住居に入らず、外から警察もしくは管理者に連絡する。
自分が「Safe Haven」にいて不審を感じた場合、絶対に出て行かない。
パニック・アラームを躊躇なく押し、警備会社を呼ぶ。
可能ならば、「Safe Haven」内からサイレン付メガホンで外部に危険を知らせる。
「Safe Haven」内から電話・無線で関係者・警察に連絡する。

賊と対峙した場合は無抵抗に徹する。

「Safe Haven」とは、賊が家に侵入してきても、ある程度の時間、安全を確保できるような場所や部屋のこと。

イ 犯罪に遭遇した後

間警機関に直ちに連絡する。

警察へ届け事情聴取を受ける。

(5) デモ・騒乱を察知したら

ア 兆候

人や車が引き返している。

市内、道路にいつになく人がなく、静まりかえっている。

側道に警察官が多く立っている。

警察により道路封鎖が行われている。

隣人・同僚からの情報

イ 対処の原則

引き返すか迂回して、危険地区から遠ざかる。

投石等、身の危険を感じたら、スピードを上げてその場から離れる。

関係機関へ連絡する。

(6) 自宅待機・緊急避難の指示が出た際の準備

いつ何が起こっても、直ぐに次の物品を用意できるよう日頃からその所在を確認しておいてください。

旅券 イエローカード エグゼンプション・サーティフィケート 運転免許証

携帯電話 緊急連絡網 現金(US\$3000程度) クレジットカード

小切手帳 食料、飲料水 常備薬 ラジオ 懐中電灯

車の燃料(満タンにしておく) マッチ、ロウソク 着替え 洗面道具

刻々と変化する「情報」や「危険地区の指定」、「外出の自粛勧告」、さらに事態が悪化した場合には、外務省安全基準について、随時、緊急連絡網を通じて連絡をします。

平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群集心理に巻き込まれたりすることのないよう注意して下さい。

国外退避を要する緊急時には、まず扶養家族に対して、その後状況が悪化すると本人に対して退避が勧告されます。

以上